経　済　港　湾　委　員　会　記　録（Ｎｏ.２０）

１　日　　時　　令和６年３月２１日（木）
午前１０時００分　開会
午後　０時３９分　閉会

２　場　　所　　第３委員会室

３　出席委員（９人）

委員長	吉田幸正	副委員長	渡辺修一
委員	田中元	委員	香月耕治
委員	渡辺徹	委員	世良俊明
委員	奥村直樹	委員	高橋都
委員	本田一郎		

４　欠席委員（０人）

５　出席説明員

産業経済局長	池永紳也	企業立地・農林水産担当理事	小石富美恵
総務政策部長	正代憲幸	産業政策課長	徳永準也
地域経済振興部長	森永康裕	雇用政策課長	中川茂俊
商業・サービス産業政策課長	楠本祐子	観光部長	辰本道彦
観光課長	酒井俊哉	観光振興担当課長	大前亜弥
門司港レトロ課長	大浦太九馬	港湾空港局長	佐溝圭太郎
港湾整備部長	伊藤仁	港湾工事担当部長	今吉淳一
計画調整担当課長	御舩雅寛	整備課長	政德克志
公営競技局長	中村彰雄	公営競技局次長	横山久
地域貢献推進担当部長	島屋良一	総務課長	本多利明
競輪事業課長	足立守行	ボートレース事業課長	窪田浩二

外　関係職員

6　事務局職員

議事課長　木村貴治　　委員係長　伊藤大志

7　付議事件及び会議結果

番号	付議事件	会議結果
1	陳情第88号外２件について	別添陳情一覧表の陳情３件について、閉会中継続審査の申出を行うことを決定した。
2	公営競技における一般財源及び地域への貢献について	公営競技局から別添資料のとおり説明を受けた。
3	地域経済の活性化とにぎわいづくりについて	産業経済局から別添資料のとおり説明を受けた。
4	地域経済の活性化とにぎわいづくりについて外２件	別添所管事務調査一覧表の事件について、閉会中継続調査の申出を行うことを決定した。
5	行政視察について	５月14日から16日までの３日間で行政視察を行うことを決定した。
6	北九州港廃棄物海面処分場整備事業の公共事業評価に関する検討会議及び市民意見を踏まえた市の対応方針について	港湾空港局から別添資料のとおり報告を受けた。
7	門司港レトロ地区臨海部開発事業の開業時期について	港湾空港局から別添資料のとおり報告を受けた。

8　会議の経過

○委員長（吉田幸正君）それでは、開会いたします。

本日は、陳情の審査及び所管事務の調査を行った後、港湾空港局から２件報告を受けます。

初めに、陳情の審査を行います。

お手元配付の一覧表記載の陳情３件については、いずれも閉会中継続審査の申出を行うことに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり。）

御異議なしと認め、そのように決定いたしました。

以上で陳情の審査を終わります。

次に、所管事務の調査を行います。

まず、公営競技における一般財源及び地域への貢献についてを議題といたします。

本日は、北九州市公営競技事業経営戦略後期計画案について、報告を兼ね、当局の説明を受けます。公営競技局総務課長。

○公営競技局総務課長　おはようございます。

それでは、北九州市公営競技事業経営戦略の後期計画案について、タブレットに格納している概要版に沿って説明いたします。

この経営戦略は、公営競技事業に地方公営企業法を全部適用したことに伴い、中長期的な視野で経営を行っていくため、平成31年３月に策定したものです。

計画期間については平成31年度からの10年間としておりますが、社会経済情勢の変化等に対応するため、前期５年間、後期５年間に分けて策定することとし、今回、令和６年度から令和10年度までの後期計画を策定するものです。

それではまず、本経営戦略の基本事項について説明いたします。

最初に、企業理念でございます。

法律により特別に認められた公営競技の使命を全うするため、小倉競輪・ボートレース若松は、事業の収益金で、将来にわたり、北九州市の未来づくりと豊かな社会づくりに貢献していきますとしております。

この企業理念の実現に向け、目指すべき３つの将来像を定めてございます。左から順に、売上面をテーマとした選ばれるレース場、運営・財務面をテーマとした健全な運営・信頼されるレース場、地域・社会貢献面をテーマとした親しまれるレース場です。今回の後期計画におきましても、この企業理念実現のため、３つの将来像を目指して、後期目標を定めてございます。

続いて、将来像ごとの主な取組項目でございます。

まず、競輪事業でございますが、選ばれるレース場の中では、競輪祭の売上額向上やミッドナイト競輪の売上額向上、オリジナルＣＭの作成、放映などによる本場来場者の確保などに取り組んでまいります。健全な運営・信頼されるレース場では、安定的なレースの開催、安全・安心な環境の提供などの項目に取り組んでまいります。選ばれるレース場では、イメージアップ事業の企画、実施、施設の地域開放の推進などに取り組んでまいります。

続いて、ボートレースでございます。選ばれるレース場の中で、電話投票、場外売上額の確保、ＳＧ競走等の誘致などに取り組んでまいります。健全な運営・信頼されるレース場では、競輪と同様の項目に取り組んでまいります。親しまれるレース場では、施設の地域開放の推進、クレカ若松の利用促進などの項目に取り組んでまいります。

こうした競輪、ボートレースにおける取組の成果については、概要版資料の右側記載の

とおり、指標と目標値を設定して進捗を確認していくこととしております。

最後に、後期目標でございます。

目標については、近年の発売傾向を基に、後期期間中の発売額を予測した上で設定しております。

競輪事業については、令和５年度上半期の発売額は前期より若干増となっておりますものの、令和４年度以降、増加率が縮小してございます。したがいまして、今後、発売額は横ばい、または減少に転じる可能性がございます。こうしたことから、発売額は横ばいで推移すると想定してございます。競輪祭や女子王座戦など、ファンの満足度を高めるレース開催に取り組むことで、令和４年度発売額の維持に努めてまいります。

ボートレース事業につきましては、令和４年度までは発売額が増加しておりましたが、令和５年度上半期では前年度より微減となっており、令和５年度以降は減少傾向となる可能性がございます。こうしたことから、発売額は若干減少に転じるのではないかと想定してございます。グレードレースの開催誘致やミッドナイトレースの開催日数増などに取り組み、発売額を確保することに努めてまいります。

こうした想定の下、計画期間中の収支予測を行い、後期目標を、後期５年間を通して収益金530億円以上、一般会計繰出金260億円以上と設定しております。

なお、前期５年間の目標は、収益金440億円以上、一般会計繰出金170億円以上と設定しており、本年度決算をもっていずれも達成の見込みとなってございます。

来年度から、先ほど説明した項目、競輪祭の売上向上やボートＳＧレースの誘致など、後期目標を達成できるよう、様々な施策に取り組んでまいります。

以上、後期計画の概要でございます。詳細につきましては、別途添付しておりますタブレットの冊子データを後ほど御参照ください。

以上で説明を終わらせていただきます。

○委員長（吉田幸正君）ただいまの説明に対し、質問、意見をお受けいたします。なお、当局の答弁の際は、補職名をはっきりと述べ、指名を受けた後、簡潔、明確に答弁を願います。

質問、御意見はございませんか。高橋委員。

○委員（高橋都君）競輪もボートも頑張っておられるということはよく分かります。その中でイメージですね、競輪もボートもそうですけど、遊びに行きやすいかどうかということとか、地域社会に役立っているかっていうのがあるかなと思います。特にチケット購入をしていない方たちというのは、やはりこのイメージというのが、行きやすいとかそういうのが分からないのかなと思うのですが、ただ、その中で、収益金が本市の財源に充てられていることを知っている、地域貢献度ということで、現状値というのが令和５年度はこれまでよりも数値が下がっているということが報告されております。これまで収益金がこ

ういうふうに一般会計に繰り入れられて、こういうところに使われていますという、そういう周知というのはどのようにされているんでしょうか。

○委員長（吉田幸正君） 地域貢献推進担当部長。

○地域貢献推進担当部長　地域貢献にどのようにＰＲをしているかというところでございます。

レース場内の施設におきまして、文化、親子向けの子供イベント等を実施することなどを通して地域貢献へのＰＲをしてございます。また、人の多く集まるイベント、それから、祭り、こういったものなどで建てられる例えばステージ下の広告などを通じて、様々なＰＲをしているところでございます。

さらには、市のホームページ、ＳＮＳほかも含めて、あと地球の歩き方、雲のうえ、そういった雑誌の広告等も活用しながら、収益金が市民のために役立っているというようなことを、広く市民の方々にアピールさせてもらっているところでございます。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君） 高橋委員。

○委員（高橋都君） ありがとうございます。

目に触れるところにないと、イベントとか、祭りとか、そこの会場とかに行かなければそういったことも分からないかと思います。これだけ大きな収益を一般財源に入れて、それが地域のためにも役立っているということも、もう少し分かりやすい方法で、ホームページと言いながら、そこを引かないとなかなかそこまで到達しないというのもありますので、そういった意味でも、もう少しＰＲの仕方というのを考えるべきかと思います。せっかく頑張って地域に少しでもということ、私たちもまだまだ知らない部分がたくさんあったというのも、この間行きましたよね、そのときにこういうＰＲというのは重要というのをすごく感じました。学校とか、そういったところでもこういうふうに収益を使うことができるということも、またそういうのも周知していただくことも必要かと思います。

もちろんあと、ギャンブル依存症の対策も必要というのも、この中にも書かれてあったと思いますので、そういう対策もしながら、さらにそこのところを強化していただきたいと思うのですけど、どうでしょうか。

○委員長（吉田幸正君） 地域貢献推進担当部長。

○地域貢献推進担当部長　子供向けにはいろんなイベントをやっていると答弁させていただきましたけれども、メディアドーム、それから、ボートレース若松のクレカ若松という施設等におきまして、月１回子ども食堂等も実施させてもらっておりますし、子供向けにもＰＲをしているところでございます。委員おっしゃいますとおり、今後も収益金が皆様の役に立っているということにつきまして、様々な方策、より分かりやすいＰＲ方法を考えていきたいと思います。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君）公営競技局総務課長。

○公営競技局総務課長　依存症対策にしっかり取り組んでもらいたいという御要望でございました。

ボートレース若松におきましても、小倉競輪におきましても、相談窓口というものをきちんと明示いたしまして、本人から、もしくは家族から、本人がそういった依存症で苦しんでいるので、入場をさせないでほしいというような相談があった場合については、こちらできちんと受け止めて、本人の申告に基づく出入り禁止というようなことを毎年きちんと実施しております。これは、中央団体につきましても、コールセンター等をつくりまして、そういった御相談をお受けした場合は、きちんと真摯に対応していくということは我々公営競技をやっていく者として、今後もきちんとやっていきたいと考えております。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君）高橋委員。

○委員（高橋都君）ありがとうございます。二面性があるので、依存症とかになると、全てを否定するのか、それとも、ここで実際にボート、競輪でもそうですが、今女性の選手も多くおられたり、家族で楽しめる、ギャンブルではなく楽しむところというか、レジャー性というか、そういったところにイメージを持っていくとか、いろんな意味でここが難しいところだと私たちも感じているところです。けれども、これが公営競技と位置づけされているのであれば、そのところでしっかりと社会貢献していくということは必要かと思いますので、せっかく頑張っておられるところのＰＲもまたよろしくお願いいたします。以上です。

○委員長（吉田幸正君）ほかにございましたら。奥村委員。

○委員（奥村直樹君）１点、今の高橋委員の質問にも関わりますが、緑の部分の運営・財務のところに、競輪、ボートレース、どちらにも安全・安心な環境の提供という言葉があります。逆に言うと、今までどういったところが安全・安心に課題があったのかとか、どういうふうに感じられていたのかというところをまずお伺いしたいと思います。

もう一点は、イメージ調査のところで、今言ったように、今まで来たことがない方は上がっていっているなと思うし、上がっていく方法とかも伺ったのですが、この目標値を見ると、車券あるいは舟券の購入経験者は微減しているのですけど、目標値が、これ今は93％と91％で非常に高いので、これが限界という状況なのか、あるいはもしかするとこれからどんどん一般の方を招き入れていくことによって、そこがもしかして落ちるのかとか、微減ですけど、ここが少し下がった理由を教えていただきたいと思います。

○委員長（吉田幸正君）公営競技局総務課長。

○公営競技局総務課長　安全・安心な環境の提供ということを掲げていることについてでございます。

公営競技は、先ほど高橋委員からもありましたけれども、ギャンブルといった側面から、場内秩序というのが過去に乱れたこともございました。現在はそういうことはないように、警備員等をきちんと配置して、皆さんが楽しく観戦できるようにということで、まず、競輪場の中に入ってレースを楽しむ状況をきちんとつくれるように、安全・安心な環境を提供していきたいと考えています。また、お見えになっていない方には、ボートレースパークをはじめとする、先般から説明している内容の中で、来た方が、ギャンブル場ではなくて、いわゆる地域資源として楽しんでいけるような安全・安心な、レース場が迷惑施設ではなくて、パークとして楽しんでいけるように、我々としても努力していきたいということでこういったことを掲げさせていただいております。以上です。

○委員長（吉田幸正君） 地域貢献推進担当部長。

○地域貢献推進担当部長　目標値の設定の件でございます。

委員おっしゃるとおり、競輪事業、モーターボートレース事業、いずれも購入経験者に対しましては目標をクリアできたのに対して、購入の未経験者は現実に目標を下回ったものになってしまいました。とはいうものの、いずれも戦略の策定時、平成30年に策定いたしましたけれども、この策定時よりも上昇してございます。一定の成果はあったのではないかと考えてございます。

購入の未経験者に対します公営競技の地域貢献、それから、社会貢献性のアピールにつきましては、主にファミリー層をターゲットにこれまで実施させてもらっているわけですけれども、前期の戦略期間中がイコールコロナ禍であったというようなところがございまして、思うようにイベントの御案内ができなかった、我々のやっていることの御案内ができなかった、ＰＲできなかったというところが一つの大きな原因と考えてございます。

いずれにいたしましても、市の一般会計への繰り出しはもちろんのこと、どのような地域貢献が市民に期待されているかというようなところを酌み取りまして、収益金の一部を有効に活用して、公営競技事業の支持、それから、理解につなげたいと考えてございます。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君） 奥村委員。

○委員（奥村直樹君） すみません、私多分勘違いしていまして、２つ目、目標値って最初に定めた令和10年度の目標を書かれているのですよね、ということは、購入者に関しては既に達成したということですよね。私が勘違いしたのは、今定めた目標値かと思ったので、現状値より低い目標値を定めたのかと思ったんですよ。今93％、令和４年で満足と言っているのを、令和10年度90％になっていたので、５年後の目標を今より低い数値にしたのかと思ったのでさっき質問しましたが、もともと定めていた、さっきの右側のオレンジのところですね、後期５年間の主な指標と目標値のところ、だから、当初の目標をもう既に超えたっていうことですよね。例えば、競輪事業の車券購入経験者は、令和10年度の目標値

が90％で、令和４年度の現状値が93％で既に超えているのでというところです。

○委員長（吉田幸正君）公営競技局総務課長。

○公営競技局総務課長　今は93％で超えていて、今後の目標値が低くなっているのはどういうことかという御質問の趣旨だと思いました。

先ほど委員が御指摘のとおり、93％でかなり高い数字でございます。また、今後、車券購入、ボートレースパーク化等を通じていろんな方にお見えになっていただく、下で言いますとコロナ禍前のメディアドームの利用者を10万人に戻したいとか、ボートレースパーク化を通じて３万人を15万人という形で多くの方にお見えになっていただきたいという目標を掲げておりまして、このようにいわゆる分母が大きくなりますと、なかなかそれが100％というのは難しかろうという中で、最低90％はまずパークにお見えになって、車券を購入した人たちにもそういったことが理解できるようなパーセンテージという形で、現状値よりも低いというのは分母が広がるという面で御理解いただければと思います。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君）奥村委員。

○委員（奥村直樹君）分かりました。もうそれで十分ですので、ぜひ高い水準を保っていただけたらと思います。

もう一つの安全・安心ですけど、今の答弁からすると、今現在は安心・安全に、基本的には課題はもうなくて、昔あったよっていう話だったと思うのですが、それは、例えば警備員がいるから保たれているのか、もしかするともう場自体がそういった警備員が仮にいなくても、そういった空気感というか環境もないのかというのは、肌感覚を伺えればと思います。

○委員長（吉田幸正君）公営競技局総務課長。

○公営競技局総務課長　ボートレース場、競輪場自体の本場に見えるお客様は、昔に比べてそういった少し難しい言い方をしますとやんちゃな感じというのはもうほとんどないです。ボートについては特に、ＣＭ等でも御覧になられると思いますけれども、若年層もレジャーとして楽しんでいらっしゃいますので、そういった場が荒れたというような感じは、我々は競輪祭や大きなレースで場内を歩きますけれども、もうほとんどないと御理解いただければと思います。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君）奥村委員。

○委員（奥村直樹君）私も何度か視察も含め、個人的にも子供を連れて遊びに行ったこともあるのですが、おっしゃるとおり、ここはと何か眉をひそめるようなシーンに遭ったこともないので、ということは、あとは本当にイメージの問題だと思いますので、先ほど高橋委員がおっしゃったように、ＰＲをぜひしていただいて、イメージを上げていただけたらと思います。終わります。

○委員長（吉田幸正君）本田委員。

○委員（本田一郎君）私から３点お聞きします。

初めに、安定的なレースの開催ということで、ＳＧ等の上位レース等は収益が上がるというのは承知しているのですけれども、その開催に向けて何か取組とか、ほかの競技場との競争等があるかどうかを教えてください。

２点目に、施設の地域開放の促進についてですけれども、自治会とか、例えば学校関係、地域団体等へのパーク化に係る周知を何かやっているかどうかを教えてください。

最後に、クレカ若松の利用促進で、私も年に幾度となくクレカ若松でいろいろ会合があってお邪魔しているのですが、もともとその会場費がホテルとかいろんな施設よりは低価格だと思います。若松区で言えば、若松市民会館よりもよりつきがよくて便利がいいなと、利便性が高いなとは思っているのですけれども、この運営自体を利益が出るような運営にしていいものかどうかということ、また、何か割引を実施したりもしているのかどうか、利益を出していいような運営をしていいかどうかということを教えてください。

以上３点お願いします。

○委員長（吉田幸正君）ボートレース事業課長。

○ボートレース事業課長　最初の安定的な収益を得ることで、大きなレース、ＳＧ競走等の誘致に係る関係でお答えさせていただきます。

ＳＧ競走は年間８本ほどしか競走がございませんので、それを24場の中で取り合わないといけないのです。そのときに、これは中央団体が選ぶのですが、ほぼ全ての場が手を挙げます。その中から、どのＳＧレースをどこに割り当てるというのは中央団体が決めるのですが、これは、業界への貢献度とか、業界への貢献度というのは、ＰＲをしていますかとか、場内をきれいにしていますかとか、お客様に対してファンサービスをしっかりやっていますかとか、そういうものを基準に選定をいたします。そのときに、私ども若松でありましたら、パーク化を進めますと、このパーク化も１万平米ぐらいで、全国でもトップレベルの規模にありますとか、そういうものをアピールしていきます。安全・安心な競走ができるように、こういう水上施設を整備してまいりますとか、そういうことをどんどんアピールして、それで中央団体に選んでいただくと。当然他場もそのことをやりますので、いかに相手よりもいいものをつくるかとか、その辺をしっかり考えながら、我々職員一同邁進していると、場外で発売していただくんで、営業活動とかも含めて、その辺が業界にフィードバックされますので、その辺の貢献度も見ていただくと、そういうことで頑張っております。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君）公営競技局総務課長。

○公営競技局総務課長　次に、地域貢献施設のＰＲでございます。

クレカ若松をはじめとして、若松ではレッド・ロックといいましてボルダリング施設、

子供のためのわかわくらんど等を設置しております。これらについては、お見えになる方、もしくは地域周辺の方々に、来年度のレースの施行状況等を説明する会議等で説明をさせていただいて、周辺にお住まいの方はぜひお使いいただけるようにということをＰＲしております。

それから、ボートレースパーク化については、まだ今やっと造成工事に着工ということで、令和７年度中の供用開始でございますので、工程がはっきりしましたら、施設の整備内容、開場時期等も含めて、これは近くの方だけではなくて、全市的に大きくＰＲをしていきたいと考えております。

また、わかわくらんど等もなるべく機会を捉えて、全市的にはＰＲしてまいりたいと考えております。

それから、クレカ若松の利益についてどのように考えるかということですけれども、地域開放の促進という観点からは、利益面は度外視ということではございませんが、ただ、会場として利用しやすい環境を整備しておりますので、例えばダンスの練習のために鏡を張っていたりとか、懇親会のためにカラオケができるような設備を配置していたりということをしておりますので、近くの公民館と同じ程度の使用料については、御負担いただくという考え方の下に料金を設定しております。

一方で、先ほどの減免等については、今申し上げたとおり、きちんと整備して、いつでも使える環境を整備しておりますので、現状としては、どの団体に対しても公平に御負担いただくという観点から、減免等の措置はしておりません。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君）本田委員。

○委員（本田一郎君）ありがとうございます。

ＳＧレースは年８本で、24場で３分の１、倍率も高いです。ただ、業界への貢献度ということですので、ぜひ取り負けないように、どんどん貢献していただければと思いますので、よろしくお願いいたします。そして、どんどん誘致していただければと思います。

それから、周知の件ですけれども、工程が決まったらまたきちっとやられるということで、それもそのように丁寧にやっていただければと思います。

私もクレカ若松に行ったついでと言ったらおかしいですけれども、場内を歩いたりしていますが、女性用のトイレ等もすごくきれいですし、いろいろＰＲできる部分はあると思いますので、それも周知していただければと思いました。

あと、料金の件ですけれども、よかったです。もともと安いので私も減免をする必要もないと思っております。ただ、そうはいっても低額で地域に貢献するために、また、地域に開放する観点から、そのような取組をしているということでしたので、そこは安心しました。また、利用者もそこはよいバランスで使いやすいと思いますので、今のまま、進めていただければと思います。私からは以上です。

○委員長（吉田幸正君）ほかにございましたら。世良委員。

○委員（世良俊明君）私からは２点お尋ねします。

この中で、発売のほとんどがインターネット投票という状況になっている現状を踏まえて、競輪、ボートともに、今後の発売額は減少傾向に転じる可能性があると位置づけられていますけれども、この可能性というのはどのような意味合いでこういうふうに書き込まれているのでしょうか。今後の懸念材料といいますか、そういうものがあるのだとすると、その辺についての認識をお尋ねしたいと思います。

それから、もう一つ、23ページで一般会計への繰り出しということで、競輪も令和８年度から４億円、３億円、３億円と、計画としてようやく一般会計への繰り出しを再開するということで、これは要望しておりました中で、当初の計画より１年前倒しをしていただいているかと思いますし、大変喜ばしいことだと思いますが、これに至った経緯についてお尋ねしたいと思います。

○委員長（吉田幸正君）公営競技局総務課長。

○公営競技局総務課長　インターネット投票が大幅に大きくなっている中で、減少の可能性があるという懸念が示された点についての根拠ということでございました。

我々は、発売額について過去５年間等を見まして、コロナ禍による無観客レースや外出自粛に伴って、インターネット投票が大幅にというか、爆発的に伸びたことが今の売上げを支えている状況でございます。これがコロナ禍を経まして、今年、それから、昨年度と、競輪で言いますと十数％の２桁の伸びから5.何％、2.何％という形でもう伸び率が半減していっている状況になっております。こうしますと、どこかでここ１、２年でピークアウトするのではないかという予測でございます。

一方、ボートにつきましては、若干年明けにまた回復してきておりますけれども、明らかに年度上期は2.0％程度の減少という形で、完全にピークアウトしたなという数字が見えましたので、過去なかなか経験がないですけれども、バブル崩壊のときは一気に崩れたのですが、今の状況はそこまでないということで若干、例えばボートであれば経営戦略期間中に５年間で全体の10％ぐらい落ちる可能性はあるという形で考えています。

競輪については、ピークアウトするか、横ばいが続くのではないかと。これは、各43競輪場でレース数等は限られておりますので、伸びが止まるのではないかと考えて、経営戦略にはそのような観点から可能性を指摘した上で、発売予測もそこに合わせてやらせていただきました。

競輪の繰り出しが１年早まっている、これまでの答弁より少し早まっているということにつきましては、競輪は、今申し上げた観点からピークアウトしそうではありますけれども、過去、今年も最高額の売上げに近い額を売り上げるのではないかという状況になっております。そうしますと、常々申し上げておりました企業債の償還については、今後も計

画的に、令和８年度まで続きますけれども、30年たつメディアドームの施設整備の建設改良積立ても順調に積み立てることができるというふうな認識に至りました。先ほど申し上げたとおり、公営競技の使命を全うするというのはやはり繰出金で市政に貢献していくということですので、最終年度となれば、企業債の残高も確定、それから、基金の残高もそれ以上持っているという状況が現時点では想定できますので、最終年度については繰り出しを再開できるのではないかと、予算編成時期にはそういった予算を計上できるのではないかということで、それに向けて努力するということで、今回、繰り出しを令和８年度からということにさせていただきました。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君）世良委員。

○委員（世良俊明君）ありがとうございました。

それで、今御答弁いただいた中で、今後の対策として特別なことを考えていらっしゃいますか。先ほどのインターネットは、これからピークアウトする可能性があるという状況の中で、それに対する対応としては、こういうものをやっていこうということがもしあれば、特別なものがあれば教えてください。

○委員長（吉田幸正君）公営競技局総務課長。

○公営競技局総務課長　ボートで言えば、先ほど事業課長が申し上げたとおり、ＳＧを誘致するというのはかなり大きな売上げになります。ピークアウトしていく中でも、全国的な傾向と個別の傾向というのを我々も折れ線グラフを描いてみたのですけど、ほぼ一致していまして、なかなか全国的な傾向に抗うのは難しいですけれども、個別上、ミクロで見たときには、努力した中でできることというのは、ＳＧレースを誘致することが一番大きなことと、もう一点、ボートも、今回も書かせていただきました、ミッドナイトレースの日数を拡大してまいります。このミッドナイトレースというのは、９時以降、単独でレースを３レース、４レースできるという状況になりますので、売上げが１場に集中するというメリットがございます。こういったことをやりながら、全体的に落ちていく中でミクロでは売上げを確保していくと考えております。

競輪についても、いろんな中央団体の施策、今回で言えば女子王座等が始まりましたので、こういった新しいレースを大きく育てていくというような形で売上げを確保していくと考えております。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君）世良委員。

○委員（世良俊明君）ありがとうございました。それでよく分かりました。

その上で、まだ先の話でありますが、競輪事業においての一般会計の繰り出しがなされるときには、ぜひ大々的に宣伝をしていただいて、これまでの経緯の中で公営競技が市民生活にようやく役立つ形で再開することができたということをぜひアピールをしていただきたいと思いますが、これは先の話なので、要望だけしておきます。よろしくお願いしま

す。

○委員長（吉田幸正君）ほかにございましたら。香月委員。

○委員（香月耕治君）公営競技局は財政への寄与ということで評価をしています。ギャンブルという意識、これはもうしょうがないのかも分かりませんけど、まだまだついて回るということで、それを少しでも解消するためには、社会貢献、財政に寄与するというのは大変高く評価していますけど、社会貢献をいかに広報していくかというのが鍵になると思います。

特にメディアドームというか競輪の場合は、一般的な使い道をもう少し広げるという、利用の問題もあるのでしょうが、その辺は前向きにというか、メディアドームイコール競輪というイメージを払拭するぐらいの活用をぜひしていただきたいと思っています。

今、メディアドームというか、競輪の話が出て、令和８年に償還が終わると、たしか当初は300億円ぐらいの設備投資で始まりまして、めでたく終わるということですが、一般財源に繰入れすると、どのくらい繰入れができるのか。

それと、基金がありましたが、今基金は幾らになっているのか。

○委員長（吉田幸正君）公営競技局総務課長。

○公営競技局総務課長　繰入れにつきまして、今回掲げておりますのは、令和８年度から３年間で10億円程度を見越しております。これにつきましては、先ほど申し上げたメディアドームの建設債は償還できましたが、委員御指摘のとおり、30年かかりましたので、老朽化も進んでおります。そうしますと、再投資のために、我々は今100億円を目標に、令和10年度までに100億円程度確保できれば、次の改修に取り組めるのではないかと考えておりますので、今期間の繰入れは10億円程度にとどまろうかと思います。

その上で、毎年度、今年度であれば12から13億円の収益が出ますので、大規模改修が終わりましたら、12億円の収益をいかに繰り出して、いかに保全経費に回していくかというのは、次の戦略期間の中で考えていきたいと思いますけれども、当面、この計画期間では、ボートに対してちょっと見劣りしますが、まずは使命を果たすために、後期５年間のうち３か年で10億円程度を繰り出せればと考えております。

それから、基金の推移ですけれども、現在、いろいろやっておりまして、令和４年度末で、決算時に約60億円程度の残高がございますが、今年度も14億円ほど償還に使わせていただきますので、令和５年度で四十数億円程度の残高になろうかと思います。残りの競輪の償還に用いるか、もしくは競輪の事業が順調にいけば、用いずとも、取り崩すこともなくなろうかと思いますけれども、現時点では最終的に二十数億円が基金として残るのではないかと、あくまで想定でございますけれども、そのような状況でございます。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君）香月委員。

○委員（香月耕治君）それを聞こうと、今後の設備投資を聞こうと思っていましたが、ボートはどうなのですか。

○委員長（吉田幸正君）公営競技局総務課長。

○公営競技局総務課長　今我々の事務室がありますボートの東スタンドというのは、平成28年に改修を終えておりますので、ここから先は小規模な修繕になろうかと思います。

西スタンドについては、現在、基本設計中でございまして、これが終わりましたら、２カ年かけて実施設計を行います。これと、先ほど言いましたパーク化と併せて、計画の段階では約70億円程度の設備投資になろうかと思います。大分老朽化している設備をきれいな設備にして、またお客様をお迎えするという形になりますが、これについては今ボートで繰り出しから内部留保した分で大体130億円程度の建設改良積立てを保有しておりますので、ここを活用させていただいてできると考えておりますので、今後、例えば収益に悪影響を与えて繰出金に影響があるということはございません。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君）香月委員。

○委員（香月耕治君）売上げが頭打ちになっているというか、若干心配なところがありますけど、さっき言った公営競技ということを大きく打ち出して、社会貢献をしていくということが肝要だと思っています。

ネットでの売上げがほとんどになってきたと、このネットの売上げの内訳というか、市内とか市外とか、そんなのは把握できてますか。

○委員長（吉田幸正君）公営競技局総務課長。

○公営競技局総務課長　ボートで言いますと、この前、皆さんで訪問されたボートレース振興会が、個人情報といいますか、顧客情報を管理しておりまして、市外、市内というのは、すみません、分かりません。

競輪は、民間ポータルが参入しておりまして、オッズパークとか宣伝しております、ああいったところが参入しておりますので、これも市内、市外というのは、申し訳ありませんけれども、把握しておりません。

○委員長（吉田幸正君）香月委員。

○委員（香月耕治君）そういう環境が変化してきているということで、今後も精いっぱい頑張っていただきたいと思います。以上です。

○委員長（吉田幸正君）ほかにございますか。渡辺徹委員。

○委員（渡辺徹君）各委員の意見を聞いて、本当に皆さん御努力されているというのはよく分かりました。

特に安心・安全。私は小さいときに門司競輪場があって、そのイメージがあるため、まだ競輪を主催しているときに競輪場には行ったことがないです。ボート場はあるのですけれども、ぜひ競輪場に行ってみたいとは思うのですが。それと、今はもう若い方だけじゃ

なくて、家族連れとかいろんな形で寄りつけるようになったというのは皆さん方の御努力だと思っております。

昨年、視察に行ったときに、一番心配していた、もうボートも競輪も頭打ちということを言われて、そっちのほうがびっくりしましたが、そういった対策も今しっかり取ってやっているということで。それから、市に対してのお金もしっかり計画的にやっていただいているということをお聞きしまして、それはもう皆さん方、このスタッフが少ない中で、そういった稼ぎをやっているというのは本当にありがたいことだと思っております。

ただ、近所の競輪の選手だった方から言われて、社会貢献といいますか、そういった面で、石川で地震がありましたよね、僕は詳しく聞けなかったのでよく分からなかったのですが、地域では何か競輪の活発なところがあるのですかね、そんな言い方をしていたのですが、それでミッドナイト競輪とかはそういったところで社会貢献という意味で、石川復興とかそういう銘を打って、それはスポンサーとかいろんな条件によるのでしょうけど、そういったものも利用しながらできないのかと、そうするとイメージも大分アップするのではないかということをお聞きしました。それは、いろいろお金をいただいていまして、それをいろんな社会貢献に使っていますのでとはお話はしましたが、そういったことができるのであれば、ぜひやっていただきたいという思いです。

○委員長（吉田幸正君）競輪事業課長。

○競輪事業課長　今能登半島地震の復興支援競輪というのを全国的に行っておりまして、Ｆ１開催だったら150万円支援すると、そういうものを各競輪場で取り組んでいるところでございます。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君）ここで副委員長と代わります。

（委員長と副委員長が交代）

○副委員長（渡辺修一君）吉田委員。

○委員（吉田幸正君）まず、全体のイメージですけど、公営競技というのはギャンブルと言えばギャンブルですが、英語に訳すときはスポーツベッティングというのです。その言葉を今朝実は聞いたのですが、大谷翔平さんの通訳の人がスポーツベッティングでうんぬんというのがありましたけど、あれは合法のエリアと合法のエリアじゃないという話があります。スポーツベッティングというと何となくスポーツを楽しんで、勝ったとか負けたとか、イメージの話ですけど。ところがギャンブルというと何となく最後の瀬戸際の大勝負というか、何かそういうイメージもありますので、多分今から、ｔｏｔｏのサッカーもそうですけど、スポーツベッティングという言葉に変わっていくような気もしますので、中央団体等々に何か意見を求められたときには、我々はギャンブルという捉え方をしていなくて、少しレジャー感を出してきているということを何か伝える場面があったらありがたいと思います。

それと、今、選手の老後というか、現役の後、福利厚生みたいなことにも心を寄せてほしいと思います。

質問に入りますけど、選ばれるレース場のところの今後の後期計画の中に、売上げを上げたり、来場者を確保するのに選手の獲得、育成、宣伝みたいなことが必要になってくると思っています。それで、この後期の計画の中に、特に我々が言うと地元ということになるのですが、地元のすごく足が強そうな子とか、ボートレースの体幹が強い子とかを育成することはこの計画内に組み込めないのかという質問が１つ。

それと、2023年に女子競輪が女子スポーツの中で一番稼げるランキング１位になったというネットの記事が出ていまして、うちの娘が見つけてきて、なれないのかというので絶対なれませんと僕は言っていますけど。僕らが東京にボートを見に行かせてもらったときに、女子ボートの年収の高さにびっくりしました。だから、選手を確保していく中で、稼げるというのもすごく大事な場面になると思いますし、同時に、競輪、ボートは長いと聞いていますけど、それにしてもその後があると思いますので、その終わった後、例えば教員免許を取られて、学校の先生になられたらいいじゃないですかとか、あるいはスポーツの部活の民営化とかが入ったときに、そういうところに道が開ける、行政と寄り添って何かセットで選手の獲得、育成につなげられれば、藤井聡太さんとか大谷翔平さんとかがいるので、かくかく盛り上がっているというのはあると思います。いい選手が売上げと来場者を増やすような気が僕はしていますので、計画に入らないかということを教えてください。

それと、２番目の健全な環境です。安全・安心な環境の提供。これについては、僕は事あるごとにお伝えさせてもらっていますけど、メディアドームでいうと隣の公園が真っ暗闇の中、ミッドナイト競輪が終わった後の方と地域の女性のランナーとかが交錯をしている場面がありますので、ぜひ周辺環境にも気を配ってほしいと思います。皆さんが、税金に繰入れをしてもらったときに、以前、若戸大橋に幾ら使われていますという話をされたと思います。これが広く伝わっていて、当然ボートに行くときには橋を通っていきますので、うまいこじつけもあったなという気がしますけれども、お金に色はついていません。あそこの公園があれだけ暗いということは長い地域の課題として持っていますし、同時に、あの辺はスポーツ施設がすごく充実をしているエリアです。どこも老朽化をしていますし、駐車場が無料で入れるものですから、競輪の人がぽっと停めて競輪に歩いていくというのを保護者たちが見ると、何ですかなんてやっぱりなってしまうのですよね。だけど、そこはなかなか監視、監督が行き届かないところでもあると思いますので、あそこのテニスコートも日差しが強いので屋根をしてくれないかとか、いろんな要望が上がってきています。周辺地域に寄り添った繰入れをしてほしいと、これに答えはないと思いますので、要望としておきますが、ぜひメディアドームのライトアップは特にと思います。

それと最後に、さっきから出ています大規模改修約100億円ですよね。今後、５年間の計画の中には当然大規模改修に向けてという言葉が入るべきだと僕は思うのですが、今後５年間で100億円をつぎ込むであろうと言われる、大規模改修に向けてうんぬんというのは計画には入りませんか、教えてください。以上です。

○副委員長（渡辺修一君） 公営競技局総務課長。

○公営競技局総務課長　年収、稼げる競輪選手、女子選手等いろんなことを御指摘いただきました。

選手の獲得については、我々も特に競輪は、今回、現役選手のお子さま、女の方ですけれども、競輪学校に入学したというううれしいニュースを聞きました。順調にいけば１年後にデビューということになりますので、女性のための練習環境を整えて、まずそこが第一歩と思っています。その上で、地域へこういった環境がある、それから、女子選手が小倉に所属しているということをＰＲしながら、特にスポーツで食べていけるということがＰＲできればと思っております。

ボートについては、中央団体が選手の育成、募集についてはすごく力を入れています。先ほど言われたようにスポーツで食べていくというようなキーワードだったと思いますけれども、そういった形でやっておりますので、これは試験があるから、競輪もあるのですけど、ボートの場合はみんな初めてという競技の中で、なかなか地元選手が合格するかどうか分かりませんけれども、なるべく若松所属の練習生のような形で所属してもらえるように働きかけていければと思っております。

選手の獲得自体、育成等を計画に織り込めないかというお尋ねでありましたけれども、これについては、今言いましたような項目について、毎年度取り組んでいこうと思いますので、毎年度取組項目に掲げていくような形でできればと考えております。

それから、大規模改修については、今、残りの５年間は大規模改修のための財源を積み立てる期間と考えておりまして、ここから先の令和11年度以降に財源が、先ほど委員がおっしゃられた100億円程度になれば、令和11年度以降、老朽化していく対策という形で、その数年前、２、３年前ぐらいからいろんな改修計画等を立てていくような形になろうかと思いますけれども、これについては今後の検討課題と考えております。以上でございます。

○副委員長（渡辺修一君） 吉田委員。

○委員（吉田幸正君） まず、選手育成ですよね、これはぜひ積極的にやってほしいと思いますし、まず、女子競輪選手が女子スポーツの中で一番平均で稼いでいるというのは事実と認識されていらっしゃいますか。

○副委員長（渡辺修一君） 公営競技局総務課長。

○公営競技局総務課長　スポーツ選手というのをどのように捉えるかということでございます。公営競技の中では、女子の競輪選手よりもボートの女子選手のほうが多分稼いでい

ると思います。ですから、比較をどのようにやっているかっていうことになると思います。プロスポーツっていうカテゴリーを、競輪は自転車なのでスポーツというイメージがつきやすいですが、ボートをどう捉えているかっていうのはあるでしょうけど、ただ、両方とも公営競技で、賞金を皆さん稼いでいらっしゃいますので、それは高額な賞金を獲得できるという分野ではあると思います。以上です。

○副委員長（渡辺修一君） 吉田委員。

○委員（吉田幸正君） 今後５年というか、そういう女性の、特にボートは男性も女性も一緒に走るというのは相当ナイスというか、尖っているなという感じもしますし、北九州市らしいというところのＰＲもできると思いますので、ぜひ積極的にと思います。

同時に、今ＳＮＳみたいなもので発信しましょうと、どうぞやってくださいということではなくて、プロの人がきちんとついて、そういうところは適切、適切じゃないも含めて、サポートしているというプロアスリートの話もよく聞きますので、何かここはチャンスのタイミングが来ていると私は期待していますし、稼げているというのは非常に充実している話と思います。

逆に、親の立場からすると、老後、その後はどうなるのですかということもあろうかと思いますので、何かそういうことも含めて、北九州市ではこういうふうな道もあるのですよということをいいセットにして、いい選手獲得をぜひ積極的にと思います。

周辺環境のことはぜひよろしくお願いします。

それと、メディアドームについては、この間の議会でもやりましたけれども、貸し館業務の充実をということで、僕はたまたま電話がかかって、いつからやるのですかというから、今からと思いますけど、できるだけと思っています。日本でドックショーをやっている人たちが、メディアドームでドックショーをできたらやりたいですという話、それと、キャンピングカーの展示会をやっているチームがいて、これは久留米でこの間やったらしいですけど、雨が怖いのと北九州のアクセスがいいので、本当にそんなことができるのですかと言うから、今からですけど、できると思いますし、雨がなくてあれだけ広大というのは相当見ている人から見ると面白そうだって話がありますので、ぜひ時期が来ましたら積極的に教えてほしいと思っています。

いずれにしましても、スポーツベッティングと僕は言っていますけど、あの建物を今後どういうふうに使っていくかということがあって、じゃあそれに改修費用は幾らかかるか、例えばコンサートをもっと充実してやりたいとすれば、スピーカーの配置から配線があって、それにかかるんだったら幾ら、今までどおりだったら幾らという計画だろうと思います。だから、100億円かかるか、あるいは民間からお金を出してもらって50億円で済むか、あるいは150億円になるかというのは、どういう施設をつくっていくかということを検討する今後５年間になろうかと思いますので、多目的と我々は捉えたい場面もありますので、

ぜひいい計画を出してほしいと要望して、終わります。以上です。

○副委員長（渡辺修一君）公営競技局総務課長。

○公営競技局総務課長　選手の育成の関係ですけれども、ボートレースではフレッシュルーキー制度というのがございまして、デビューして３年とか年数を区切りまして、それで各ボートレース場で推薦をいたしまして、２名とか、それを地元の選手、若松であれば北九州の選手とか、その周辺の選手とかをフレッシュルーキーと指定しまして、その選手を特に地元にあっせんしていただいて、どんどん走ってもらう。それで、地元で同じところを走るので結構早く強くなります。水面を覚えたりとか、癖を覚えたりとか、そういう優遇措置もありますので、結構早く強い選手になってもらうとか、そういうことをやっております。

それで、ボートレーサーの年収も平均で1,800万円ございますので、これは職業として選ぶ場合のかなりインセンティブになっているということは聞いてございます。

それから、地元の、特に北九州の方でありましたら、場推薦というのがありますので、例えば必ず北九州のボートレーサーになりたいというときは、ボートレース若松がこの選手を推薦しますみたいな、そういう申し添えもできます。ただ、あとは御自身の実力がないといけませんが、そういうこともやってございます。選手の育成についてはどんどんやっているところでございます。

それから、選手ＯＢについては、いろいろ技術とかも持っていますので、ボートレース場でボートの整備とかをするところでＯＢを雇っている場とかもございます。ただ、ボートの場合は選手生命が長いものですから、なかなかそういう方が出てこないというか、そういうこともございます。ただ、選手が終わった後もそういう道があるということはございます。以上でございます。

○副委員長（渡辺修一君）吉田委員。

○委員（吉田幸正君）ぜひいいＰＲを。共立大学とかは、結構スポーツアスリート、地元の人もいますので、そういうところにしっかりＰＲしてもらって、とにかくいい選手をきちんと囲い込んで、いいレースをやってください。以上で終わります。

○副委員長（渡辺修一君）ここで委員長と交代します。

（副委員長と委員長が交代）

○委員長（吉田幸正君）ほかにございませんでしたら、次の議題に関する職員を除き、御退室をお願いいたします。ありがとうございました。

（執行部入退室）

それでは次に、地域経済の活性化とにぎわいづくりについてを議題といたします。

本日は、北九州市産業振興未来戦略の最終案について及び北九州市インバウンド誘致アクションプラン案について、報告を兼ね、当局の説明を受けます。産業政策課長。

○産業政策課長　それでは、北九州市産業振興未来戦略の最終案について御報告いたします。

それでは、座って説明させていただきます。

この戦略の素案については、２月８日の経済港湾委員会で委員の皆様に御報告させていただきました。今回、そのときに御報告させていただいたとおり、２月９日から29日まで市民意見募集を行い、そこで寄せられた意見などを参考としながら素案の修正を行い、最終案として整理いたしましたので、本日はその内容について御報告させていただきます。

まず、市民意見募集の結果についてです。

別紙１、市民意見募集結果についてを御覧ください。

本年２月９日から29日までの間、市民意見募集を行いました。

なお、意見募集と並行して、市ホームページ、市政だより、関係機関のメールマガジン等、各種広報媒体を使い、市民や関係団体への周知を行いました。その結果、22人・団体の方から合計70件の意見提出がありました。提出方法の内訳については、持参等が10人・団体、電子メールが12人・団体となっております。

提出意見の内訳及び北九州市産業振興未来戦略素案への反映結果については、表にまとめておりますが、個別の戦略・方策等に関する意見が47件と具体的な取組に対する御意見が多く提出されました。

２枚目以降には、提出されました70件全てについて、意見の概要と本市の考え方について掲載しております。

本日は、そうした市民意見や経済港湾委員の皆様からいただいた意見等を踏まえ、変更を行うものについて御説明させていただきます。

それでは、別紙２、市民意見等を踏まえた修正を御覧ください。

今回、市民意見やこれまで経済港湾委員の皆様からいただいた意見等を踏まえ、５つの修正を行いたいと考えております。

修正の１点目です。１ページを御覧ください。

労働生産性全産業・第三次産業の表記は、並列で分かりづらいため、変更してはどうかとの意見を受けまして、下線部のとおり、労働生産性全産業、うち第三次産業という文言に修正したいと考えております。

次に、修正の２点目です。２ページを御覧ください。

12の検証指標の現状値と目標については、各方策のページにおいて個別に掲載されているが、全体像を把握しづらいとの意見を受けまして、検証指標の目標一覧の図表を追加したいと考えております。

次に、修正の３点目です。３ページを御覧ください。

地域中核企業の飛躍的成長は非常に重要なため、具体的な方向性を示すことが必要との

意見を受けまして、下線部のとおり、地域中核企業の成長に向けた具体的な方向性に係る文言を追加したいと考えております。

次に、修正の４点目です。４ページを御覧ください。

新卒学生の地元就職率を検証指標の一つに掲げているが、文系、理系の別についても設定すべき、製造業が多い北九州市においては、年間3,000人を輩出している豊富な理工系人材をいかに地元就職させるかが重要であるとの意見を受けまして、下線部のとおり、理工系人材の地元就職促進に係る文言を追加したいと考えております。

次に、修正の５点目です。５ページを御覧ください。

若者に人気の高いｅスポーツについての表現を追加すべきとの意見を受けまして、下線部のとおり、ｅスポーツに係る文言を追加したいと考えております。

最後に、別紙３、北九州市産業振興未来戦略最終案の２ページを御覧ください。

第５章までの本文の後に、本戦略を策定するに当たって行った詳細なデータ分析の結果や、本文に登場する分かりやすい説明が必要な用語を関連データ集、関連用語集として整理しております。

なお、４ページ以降の第２章、産業振興未来戦略策定の背景において、経済、産業の現状や経済停滞の主な要因等をお示ししておりますが、各項目に関係するデータの詳細を関連データ集に記載しておりますので、御参照いただければと思います。

今後についてですが、本日御説明いたしました最終案を基に、今年度中に成案を策定し、令和６年度より、産業振興未来戦略に基づく取組をスタートさせたいと考えております。

以上で北九州市産業振興未来戦略最終案についての御報告を終わります。

○委員長（吉田幸正君） 観光振興担当課長。

○観光振興担当課長　北九州市インバウンド誘致アクションプラン案について御報告いたします。

座らせていただいて御説明させていただきます。

このアクションプランは、令和５年４月に策定した北九州市観光振興プランのインバウンド戦略の取組について具体的に示すもので、インバウンドに関するプラン策定については初めてとなります。現状分析、北九州市の課題抽出やポテンシャル調査、庁内11課で構成する庁内プロジェクト会議及び観光業界に精通した外部の有識者や学識経験者、外国人で構成するアドバイザリー会議での議論のほか、海外のＳＮＳ分析、外国人旅行者へのアンケート調査、若手在住外国人による座談会での意見等を踏まえ、北九州インバウンド誘致アクションプラン案を策定しましたので、本日はその概要について御報告をさせていただきます。

まず、北九州市インバウンド誘致アクションプラン案の概要版の１ページを御覧ください。

アクションプラン策定の目的についてです。

アクションプランを推進することにより、北九州市の歴史、文化、自然、食などのポテンシャルを開花させ、インバウンド観光都市としてのプレゼンスを高めていくことを目的としています。

取組期間については、北九州市観光振興プランに合わせ、令和６年度から令和９年度までの４年間としております。

アクションプランの２ページを御覧ください。

アクションプラン策定の背景(1)全国・九州の現状とコロナ禍後の変化についてです。

まず、全国・九州におけるインバウンドの現状として、全国的にコロナ禍後の外国人旅行者は急速に回復しております。また、九州への入国者の割合はアジア圏が９割超え、全国的には欧米豪が２割弱入ってきている状況でございます。そして、九州への入国者の約９割が福岡空港から入国している状況にあります。

次に、全国的なコロナ禍後の観光動向の変化として、外国人旅行者の１人当たりの支出額は、2019年の15.9万円から2023年は21.2万円まで増加をしております。平均滞在日数は、2019年の8.8日から2023年は10.2日と増加しております。

また、国は、都市部へ集中している外国人旅行者を地方へ分散させるといった動きの取組を行っているところでございます。

それから、コロナ禍を経て、オンラインによる旅行予約やキャッシュレス決済が普及するなど、観光分野におけるデジタル化も推進されております。

また、一時期爆買いということもありましたが、モノ消費から、現在はコト消費にシフトしているというところと、あとは団体旅行から個人旅行に観光動態も変わっているなど、ニーズ、志向が多様化しているという傾向が見られます。

３ページを御覧ください。

アクションプラン策定の背景(2)として、北九州市の現状と課題についてです。

まず、北九州市の現状についてです。

外国人宿泊者数については、回復の傾向は見られますものの、まだ他都市に比べて回復が遅れているという状況でございます。

九州観光を目的としたアジア圏からの訪問が約98％を占めており、欧米豪の旅行者が少ない状況でございます。

2023年のアンケート調査では、福岡空港から入国した外国人旅行者のうち、北九州市への訪問は約２割といった状況でございます。

また、2018年時点ですが、九州から入国した外国人旅行者のうち北九州への訪問は約１割といった状況でございます。

次に、北九州市の課題についてです。

北九州市は、歴史、文化、自然、食などの観光コンテンツがそろっているというポテンシャルがあるにもかかわらず、外国人に対して北九州市の魅力が届いておらず、注目が集まっていないという状況であったり、また、外国人に刺さるコンテンツとして開花していないという状況があったり、多くの観光スポットが市内に点在しており、回遊性が低いという状況、そして、九州の一角をなす観光都市となっていないといった課題がございます。

４ページを御覧ください。

アクションプラン策定の背景(3)として、北九州のポテンシャルについてまとめました。

北九州市は、交通の結節点という立地の優位性や北九州全域に広がるリソースなどの場のポテンシャルがございます。また、城や祭り、文化・学習施設の充実など、培われた歴史、文化の強みである文化のポテンシャルを有しております。また、人情味あふれる市民との触れ合いや、すしなどの食文化など、人々の暮らしに根差した日常や食の魅力である人のポテンシャル、フィルムコミッション、国際スポーツ大会の誘致などの外国とのコネクションや広域連携推進など、つながりのポテンシャルといった４つのポテンシャルを有しており、これをいかに開花させていくかという視点を重視いたしました。

５ページを御覧ください。

アクションプランで目指す姿と４つの視点です。

これまで説明しました４つのポテンシャルを踏まえ、認知度が低い、コンテンツが生かされていない、回遊性が低い、点の視点となっているなどの課題を解決し、インバウンドで稼げるまちを実現するため、認知度を向上させるため、北九州市の魅力をしっかりと届ける、外国人のニーズ、志向に合わせて、観光資源を発掘し磨き上げる、市内に点在する観光スポットの回遊性を図るため線でつなぐ、そして、周辺都市などと広域で連携して面で売り込むの４つの視点に整理をいたしました。

６ページを御覧ください。

時間軸の観点とリーディング事業についてです。

本アクションプランの推進に当たっては、短期、中期、長期という時間軸を意識した観点も重要であると考えております。短期的には、福岡空港等から入国した外国人旅行者の誘致やＳＮＳの口コミによる情報発信の強化、データに基づいた施策の展開、ターゲット市場に対する戦略的なプロモーション等を行い、北九州市を知ってもらうことが必要だと考えております。

また、次のステップとしましては、祭りなどを生かしたニューツーリズムや食のブランディングなどのリソースの活用や、回遊性の向上のための取組、民が主役のインバウンドの推進、広域的な連携等を行い、北九州を楽しんでもらうということにつなげていきます。

そして、このような取組等を積み重ねることで、中長期的にはホテルの誘致や北九州空港への新規路線誘致を実現することによって、北九州市に定着してもらうこと、そして、

九州で一番訪れたい町を目指していきます。

７ページを御覧ください。

こちらは、インバウンド経済の拡大のイメージについてです。

先ほど御説明した３つのステップを実現し、インバウンドの経済のパイを拡大させて成長していくイメージを示させていただいております。

８ページを御覧ください。

ターゲット市場についてです。

まず、重点市場としまして、北九州空港への直行便が運航中、これは予定も含みますが、運航中の国、地域であり、これまでも重点市場として誘客に取り組んできた韓国、台湾、中国を重点市場とさせていただきたいと考えております。

次に、戦略的重点市場です。

こちらは、福岡空港に直行便があり、今後、戦略的に誘客をしていくものとして、タイ、シンガポール、香港を上げております。

最後に、新規開拓市場でございます。

こちらに関しましては、日本を訪れる旅行者が多く、また、滞在日数も長いため、１人当たりの旅行支出額が高いアメリカ、オーストラリアをターゲットに設定することにいたします。

９ページを御覧ください。

４つの視点と８つの方策と17のアクションについてです。

先ほど御説明した４つの視点を基に、それを実現するための８つの方策と17のアクションを定めました。

なお、17のアクションには、福岡空港等からの外国人旅行者の誘致、データに基づいたターゲットの設定、ニューツーリズムなどの外国人目線に立ったコンテンツの発掘、磨き上げ、民間事業者と一体となったおもてなしの強化など、これまでにない新たな取組も盛り込んでおります。

最後に、10ページを御覧ください。

目標値ＫＧＩ、ＫＰＩと推進体制についてです。

このアクションプランの着実な推進を図るため、外国人観光消費額を400億円以上、これをＫＧＩとして定め、外国人日帰り観光客数は40万人以上、外国人宿泊客数は30万人以上の目標を設定します。こちらは、外国人の旅行者が北九州に来たピークである平成30年をベースに、それ以上超えるということで考えております。

推進体制としましては、観光振興団体、民間事業者、市民及び北九州市などが連携することはもとより、それぞれの役割を果たしながら、町ぐるみでインバウンド観光の振興に取り組んでいきたいと考えております。また、庁内プロジェクト会議と外部委員で構成す

るアドバイザリー会議を実施することによって、今後、進捗管理を行っていきます。

以上、簡単ではありますが、インバウンド誘致アクションプラン案の御報告をさせていただきます。詳細を記載した本文についても資料として配付させていただいておりますので、御確認いただければと思います。

なお、本日の御報告後、準備が整い次第、公表する予定としております。

以上で報告を終わります。

○委員長（吉田幸正君） ありがとうございました。

ただいまの説明に対し、質問、意見をお受けいたします。なお、当局の答弁の際は、補職名をはっきりと述べ、指名を受けた後、簡潔、明確に答弁を願います。

質問、御意見はありませんか。田中委員。

○委員（田中元君） ありがとうございます。

インバウンドに特化したこういった取組、アクションプランとかというのは初めてのような気がする。僕が知らないだけなのかもしれませんけど、そういった意味でも、しっかりデータも取ったりして、真剣度が現れている感じがいたしております。

それで、当然観光客、インバウンド、海外からのお客さんも含めてでしょうが、これと空港というのは恐らくセットになってくるのではないかと思います。そうなってくると、今のところ、海外からというのは大連と仁川、これは国内便も含めてですけど、北九州空港で言えば羽田しかないということでありますし、海外も大連しかないということでもある。九州全域で言えば一番劣っている空港ではないかと思っていますし、海外便で言っても、佐賀空港ですら台湾であったり、台北、上海、仁川とかあるわけですよね。そこがセットになっていかないといけない。インバウンド客を、そうやって北九州の中で一生懸命取り組んでいって、僕は分からないから聞くのですけど、それが結局空港の路線の旅客につながるのか、それとも旅客をつなげてそっちでまた取り組むのか、そこら辺の整合性というのがよく分からないのですけど、それを１点教えていただきたいと思います。

○委員長（吉田幸正君） 観光振興担当課長。

○観光振興担当課長　航空路線の誘致については、おっしゃるとおり港湾空港局の担当でございますが、常日頃から連携を取りまして、どうやって誘客を進めていくかという、例えば香港の方、台湾の方、北九州市にいろんな国の方が来られれば、そちらの路線の誘客にもつながると我々は考えておりまして、先日も香港の旅行会社の社長が来られるということでお会いいただいたりと、路線の誘致も含めたところで、我々も情報提供しながら、常日頃から港湾空港局と連携をしているところでございます。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君） 田中委員。

○委員（田中元君） 何となくそこが先のような気がします。知られていないというのも、恐らく国際線がないので知る余地がない、知るすべがない、行くすべがないということに

なってくるのではないかという感じがしていますので、ここはもう空港に頑張っていただかないといけないところではないかと思っています。

それと、インバウンドについて、これがどこまで円安が続いて、インバウンド客がどこまでなのかというのも気になるところですが、同時に、インバウンドに特化したことなので、ちょっとずれるかもしれませんけど、国内客も当然呼び込まなくちゃいけない。北九州だけの発信ではなくて、北九州ってすごいいい町だよ、面白いよ、楽しいよ、うまいよとかということを日本国中から発信していただく。そのためには、北九州を国内で知っていただくというのも一つなのかなと思います。そのためには、国内客の誘致というのも必要だろうし、さっきも説明があったように、交通の拠点、駅もあって、飛行機もあって、船もあって、車でも九州の入り口でもある、来やすい場所でもあるので、そういったものも取り組む必要があるのではないかと思っています。

それで、いろいろ聞きたいことがありますが、全部が空港に結びついてしまうので、頑張っていただきたいと要望いたして、終わります。

○委員長（吉田幸正君） 産業経済局長。

○産業経済局長　おっしゃるとおりで、どっちが先かというのは非常に難しくて、卵か鶏かとかという議論と似ていますけれども、今回、ウエルカムキャンペーンをやったときに、今のデータですが、５万人を超える外国人が来てくれていまして、その方々がいろいろＳＮＳで発信したりすると、北九州ってこんな町だ、こんなおいしいものがあるんだ、例えば港湾空港局と一体となって進めますけれども、港湾空港局が実はこうやって福岡空港からこれだけ楽しんで５万人の人が来ていますよというのも営業ツールになるでしょうから、多分一緒になってやっていくのだろうと思います。どっちが先かというのは、本当にエアが新規でできて、お客がどんどん増えるのが一番理想だとは思いますけれども、やはり地道な、こういった観光の施策と空港の誘致の施策とをうまくつなげていくというのが大事なことだろうと思っています。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君） ほかにございましたら。香月委員。

○委員（香月耕治君） 戦略プランというか、今回の中に、以前から推進している物流や半導体が入っていないのは、別枠で推進していくということですか。

○委員長（吉田幸正君） 産業政策課長。

○産業政策課長　委員の今の御質問に関しては、産業振興未来戦略の中にという意味合いでしょうか。それであれば、その戦略の中に、半導体とかそのあたりを重点的に取り組むというのは方策の中に掲げておりまして、企業誘致も半導体についてもしっかり取り組んで、市内総生産４兆円を目指していくという中身になっておりますので、それについてはしっかり取り組んでいきたいと考えております。

○委員長（吉田幸正君） 香月委員。

○委員（香月耕治君）ある意味、物流とか新産業は北九州にとって最後のチャンスじゃないのかと、そういう危機感を持って取り組んでいただきたいと思っています。

先般の予算特別委員会のときの港湾空港局での話ですが、2033年にＧＤＰ４兆円を達成するということで、港湾空港局で令和９年に空港が3,000メートル延伸する、それから、洋上風力も近々に動き出すということで、2033年はなかなか先のことだから、令和10年ぐらいの港湾空港関係のＧＤＰ、経済波及効果、それはどう把握しているかと聞いたところ、していませんと。これは何のためにしているのかと。3,000メートルにするというのは、当局はもちろんだけど、議会も、それから、国会、県議会全て、先般は武内市長が、私がやりましたというような話がございましたが、大変苦労して仕上げた、それは何のためかというと、経済波及効果、雇用を増やす、ひいてはＧＤＰを増やしていくということだと思いますが、その点、産業経済局と港湾空港局ではどういう考えというか、積み上げのＧＤＰという最終目標、そんな話合いは、きちっとできているのですか。

○委員長（吉田幸正君）産業政策課長。

○産業政策課長　今回の戦略は産業経済局が中心となってやっていますが、当然ながらこの産業振興政策に関しては環境局の施策も当然これに盛り込んでいまして、やはり連携、協力が非常に重要と考えております。

具体的に申しますと、今回、戦略の中では、物流のところもそうですけれども、方策の２のグリーン産業の成長というところで、環境局の洋上風力の話であったり、リサイクルの話だったり、そういうところは一緒に連携してやっていきたいと考えております。

あと、積み上げについても、今４兆円を具体的にこの分野で幾らというのはなかなか、経済状況はいろいろ変動がございますので、難しい面はありますが、これから積み上げていくに当たっては、港湾空港局とも連携して、データもしっかり共有しながら、４兆円に向けてしっかり取り組んでいきたいと考えております。

○委員長（吉田幸正君）産業経済局長。

○産業経済局長　物流につきましては、一昨年だったか、先行して物流拠点化構想というのをつくっていまして、その中に５年で390億円の投資、それから、10年で1,000億円というＫＰＩを掲げておりまして、それを毎年進捗管理しています。予定どおりというか、結構投資につながっています。

それと、雇用についても、人数は覚えていないですけれども、千数百人だったと思いますが、そういうことを掲げていますので、例えば1,000億円の投資があったときに、ＧＤＰにどういう影響があるかというのはこれは計算すれば分かりますので、産業経済局としては、そういう数字は設定して、港湾空港局は空になりますけれども、連携して、しっかりと目標を達成できるようにやっていこうと思っております。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君）香月委員。

○委員（香月耕治君）やっぱり連携というか、局長にも言いましたが、もしマスコミから成果というか、どう考えていますか、そう聞かれたとき、まだ数字というか、およそこのくらいだけど、それに向かって努力しますとかということならいいけど、全く数字的には出ていませんというのは、本当にある意味あ然とするというか、恥ずかしいことだと思っていますので、連携というか、その辺の詰めはしっかりとしていただきたいと思います。

○委員長（吉田幸正君）ほかにございましたら。世良委員。

○委員（世良俊明君）数点お尋ねしますけれども、まず、14ページ、福岡空港から北九州に入る方が２割だと、九州入国者の１割だということで、これを増やしていくというのが当然のことだと思います。本会議でも申し上げましたけれども、福岡空港から入国をして北九州に来るために、新幹線、44ページのＪＲを主に使われるということだったのですが、そのネックになっているのが博多、小倉間の新幹線が使えないという状況で、フリーパスがフリーになっていないので、北九州観光のレトロ、あるいは小倉城を含めた最も中心的な観光地に来るのが阻害されるという状況があるのではないかということで、これに対して具体的に取組をすべきではないかと申し上げましたが、なかなか難しいという話だったと思います。ここを実現するとかなり違うので、着実にそうしたものを積み上げていかないといけないと思うんですが、これに対しての見解があれば改めて教えてください。

また、北九州の認知度が20％だと15ページにありました。これについては、具体的な目標が掲げられていないのですが、例えばこの認知度を８割に上げますとか、そういう具体的な目標というのは、この点については掲げられていないのでしょうか。

もう一つ、外国人のヒアリング等を積み上げてこのアクションプランをつくられたということでありますけれども、例えば外国人の方にヒアリングをしたときに、どこが一番どのように魅力的だったかとかというようなデータを公表するということは可能でしょうか。この中には、こういうヒアリングした結果としての詳しいところが若干ないような気がしますが、もし別に公表できて、こうしたところがターゲットになるのですよ、先ほど３つのターゲットがありましたけれども、こういうふうに好かれているし、こういう魅力を感じているから、これについてはターゲットとしていくというような基礎的なデータをまとめて示していくことも、市民の皆さんにお迎えするということの意義を理解していただく一つの手段だと思うのですが、これについてはいかがでしょうか。

○委員長（吉田幸正君）観光振興担当課長。

○観光振興担当課長　３つの御質問についてお答えしたいと思います。

ＪＲの会社の違いによりなかなか共通パスができないというところに関しましては、いろいろと今後も引き続きお話をさせていただきながらといったところではございますが、今回、ウエルカム北九州キャンペーンを実施することにより、ＪＲ九州からですけれども、博多、小倉間でＪＲ九州を使われた外国人の方がかなり増えたということで、今後も一緒

にキャンペーンを実施したいということで先方からお話がありました。北九州に来られた方が、特急を使っても意外と北九州って博多からすごく近いのでぜひ行くべきだということを、ＳＮＳでかなり投稿していただいたことで、広がったというお話を伺っております。引き続きＪＲ２社とはいろんな連携をしていきたいと思いますので、こちらについてはこういう御回答をさせていただきたいと思います。

あと15ページの認知度の向上についてですが、今回はＫＰＩ、ＫＧＩについては、認知度の向上というところでは数字を定めておりませんが、こういったことで認知度が向上されれば人が来ていただけるということもございますので、こちらはアンケートを見ながら、私たちの事業評価の中でしっかりと検討していきたいと思っております。

それから、今回いろんなデータを取ったということで、ぜひ私どもも公表をさせていただきたいと思っております。

現在、ウエルカム北九州キャンペーンのデータが大体５万件で、プラスアルファ、ヒアリング調査とか、いろんな調査を実施しております。これをマーケティングの視点で少し分析より単純集計だとこれぐらい人が来ましたよとかという形になりますけれども、どういった方がどういったところにいて、どういったことを好まれているかとか、北九州の何を魅力に感じていらっしゃるかというところを、民間事業者の方も使えるような状況にまで分析をした形でぜひ公表させていただきたいと思っております。

いずれにしても、お客との接点は民間の事業者と市民の皆様になりますので、町を挙げて、町ぐるみで盛り上げていければと考えております。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君） 世良委員。

○委員（世良俊明君） 答弁ありがとうございました。

それで、先ほどのウエルカムのデータの活用というのは意識していらっしゃるということなので、これは具体的にいつ頃までに、スケジュールみたいなものがあれば教えてください。

○委員長（吉田幸正君） 観光振興担当課長。

○観光振興担当課長 分析は、今手続中で、データを精査中でございますので、次年度に入ってということでございます。なるべく早く、今ちょうど民間の事業者もウエルカムの事業をすることで機運が盛り上がっておりまして、外国人のニーズが把握できたとか、あとはどういうところに自分たちに課題があるかとか、そういったところを解決していきたいという思いが強まっているようにお聞きしておりますので、なるべく早い段階で出せればと考えております。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君） 世良委員。

○委員（世良俊明君） ありがとうございます。よろしくお願いします。

もう一点だけですが、32ページにデータに基づいたターゲットの設定とあります。これ

は、今のウエルカムキャンペーンのデータもそうでしょうが、今後、このデジタル技術を活用した旅行者の移動、消費動向のデータ収集、分析にこれからも取り組まれる主要なものがあったら教えていただければと思います。

○委員長（吉田幸正君） 観光課長。

○観光課長　今まで観光に関するデータにつきましては、観光動態調査というのが中心でございまして、これは観光客が主要なスポットに来る人数等、それから、春夏秋冬、年間４回、観光客の方々に対面でアンケート調査をして、それによる滞在時間であるとか、消費額であるとか、そういったものをデータとして使っておりました。それは国の指導に基づくやり方でやっておりました。

ただ、昨今、いろいろデジタルの情報、例えば携帯情報の位置でありますとか、クレジットカード等の消費でありますとか、そういった別のデータも入手がかなりできるようになってきましたので、これにつきましては来年度、予算も増やしながら、いろいろなデータを多角的に分析できるような体制を取っていきたいということで取り組みさせていただきます。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君） 世良委員。

○委員（世良俊明君） ありがとうございます。

何か具体的なやつがありますか、こういうものをやりたいみたいなものがもしあれば教えてください。

○委員長（吉田幸正君） 観光課長。

○観光課長　今申し上げたとおり、基本になるのは２つです。お客の回遊性を見るのはやはり携帯情報の位置情報、これもいろいろ精度があります。何が一番適当かというのも含めて今検討を進めているところでございます。

もう一つは、消費に関するもので、今のところはクレジットカードを外国人の方もかなり使われておりますので、そういった方々がどこでどれぐらい使われるのかということは、データとして、ビッグデータとしては取れそうなので、この２つを組み合わせることからスタートするのかと考えております。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君） 観光振興担当課長。

○観光振興担当課長　補足させていただきますと、次年度も電子クーポンの事業に関しては継続的に行うというところでは事業評価を行うところもございますし、あとは、外国人の旅行者に対してアンケートも別に取るということで、いろんなデータを取りながら、総合的に判断をしていくという形になるかと思います。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君） 世良委員。

○委員（世良俊明君） 結構です。頑張ってください。

○委員長（吉田幸正君） 奥村委員。

○委員（奥村直樹君）数点お伺いします。

まず、最初の産業振興未来戦略のところについてですけど、今回修正を加えるといった中の一つにｅスポーツという文言を加えますと。いいことだと思いますが、今、局としてｅスポーツをどのように捉えているかというのを１点お伺いしたいと思います。現状、ｅスポーツとはどういうもので、今後、どんな可能性があるのかというのをどのように捉えているか、お伺いしたいと思います。

もう一つ、新卒大学生の地元就職率のことが中にあります。今回の市民意見の中にも複数地元就職率のことが書かれていたと思いますが、市の中の分析としては、職業観のミスマッチなんていう言葉が出てくるわけですが、私は前々から言っているのですけど、職業観のミスマッチもあると思いますが、若い世代が就職を機に市外へ転出するという言葉なんかがあるのですけれども、そもそも北九州の大学生たちが北九州を地元とどのぐらい思っているのかというところが私はとても疑問なんです。要は外から転入してきた、大学で初めて北九州に来た子たちが地元に帰る感覚、あるいは要はＵターンで帰っていっているという学生が多いのではないかと思うのですけれども、そこら辺はどのように考えているでしょうか。職業観のミスマッチよりも、職業の場所としてのミスマッチ、ミスマッチというか、学生との感覚の違いがあるのではないかと思うのですけど、そこら辺のところはどのように考えられていますでしょうか。

まず、２点お願いします。

○委員長（吉田幸正君）産業政策課長。

○産業政策課長　ｅスポーツについて御説明いたします。

ｅスポーツについてですけれども、やはり今若者の中でもかなり人気が出てきて、プロも出てきているというような状況になっております。エンターテインメントという観点で若者を引きつけるという観点で非常に重要なものと考えていますので、ほかのいろいろなアニメとか漫画とか、そういうサブカルに加えまして、こういうｅスポーツについてもしっかりと取り組んでいきたいと考えております。市民文化スポーツ局でもいろいろな取組をされていますので、一緒に連携して、この取組を強化していきたいと考えております。以上です。

○委員長（吉田幸正君）雇用政策課長。

○雇用政策課長　御質問をいただきました大学生たちが地元と思っているかどうか疑問だというお話をいただきましたけれども、これについてのしっかりとしたアンケートを取ったわけではないですが、これまでの現状分析としましては、北九州市以外に就職した理由としては、給与などの労働条件がよいであったりとか、本当にキャリアを積みたい、視野を広げたいということで、外の企業を選んでいくという傾向をつかんでいます。

逆に、Ｕ・Ｉターンをしてこない理由として上げられているのが、地元に経験や技術を

生かせる求人が少ないであるとか、戻ってくるに当たって年収アップを希望しているとか、そういった声は拾っております。すみません、お答えになっているかどうか。

○委員長（吉田幸正君）奥村委員。

○委員（奥村直樹君）まず、ｅスポーツについてですけど、１点、今回のこの修正には、私はまずいなと思っているのですけど、文書として今サブカルに含めているじゃないですか。それが市の認識だと捉えた場合に、ｅスポーツをこれからどんどんやっていこうと思っている方にとっては、ああ、サブカルと思っているんだってなるのじゃないかと思うのです。文書も、漫画、アニメ、ｅスポーツをはじめとしたサブカルチャーなどというくくりにしているので、それだとすれば、ある意味漫画、アニメなどのサブカルチャーとか、サブカルチャーじゃないくくりにしたほうがいいと思います。

今でもｅスポーツをじゃあどういうジャンルに分けるかといった場合に、スタートはサブカルだったと思います。マニアが始めた、でも、もうその域を完全に超えていると思うので、賞金額で言えば国内でも億を超えるような大会もある。そういうビジネスの面もあるし、学校で部活としてやっていたりする。教育だったりとか、デジタルスポーツとかと言えばまた何か聞こえがいいような気がするのですけど、サブカルの中にというのをやると、市民文化の一環のイベントでやっている、マニアの人が集まってみたいな域を超えられないので、行政の文書として出すのであれば、そこはサブカルの一環とするのはもったいないと思うので、もしまだ間に合うのであれば、そんなに大幅に変える必要はないと思うので、少し工夫して言葉を変えてもらえたらと思っております。要望というか、ぜひ変えていただきたいと思います。

それと、地元就職、前に聞いたときにも、確かにアンケートを取るのは難しいと、市外に出ていった学生たちの意識調査というのは基本的にできないと思うのですが、例えばさっき言ったように、待遇ですとか、機会、チャンスが理由で出ていく、でも、その人たちがここが地元だと思っていれば割合が違うのではないかと思います。地元意識があるかないかによって差があると思うのですよ。今回なぜこれを改めて聞いたかというと、市民意見の中に地元就職のことがたくさんあったと、関わるものが４つか５つかあったと思います。この市民意見の中を見ていくと、その方たちも、この地元就職という言葉によって、地元の学生たちが、本当に出身の学生たちが出ていっているって思っているのではないかと思うのですよ。もっと詳しく男女別にとか、地元就職率の向上する取組のこともいろいろ触れられているのですが、そのときのイメージにある地元の大学生というのが、今言ったように、もともと市外から来た学生が帰っていっているという現状が分かるか、イメージできるかどうかでこの市民意見も変わってくるのではないかと思いました。例えば項目として増やすとすれば、今言ったように、地元出身、北九州出身で市外の大学に行った学生の後を追うのは難しいと思うので、できるとしたら、市外から北九州の大学に来て市外

に就職した、あるいは地元にこのぐらい残ってくれたっていうのが見えるとまたちょっと違ってくるのではないかと思ったので、そういったできる範囲のもう少し精密な情報が出てくるといいと思いました、これは今後の要望とさせていただきたいと思います。

最後に、もう一件別で、インバウンドの誘致アクションプラン、細かいことなので要望ですが、概要図７ページに三角形があると思いますけど、すみません、私個人の受け止めかもしれませんが、下２つの項目が真横に水平に伸びていっているのですが、これは形状からすると、斜め下に伸びていって、三角形が大きくなったほうがイメージに近いと思うのですけど。これはもう今日出すとおっしゃっていたので、間に合わないかもしれませんけど、形としてはそのほうが多分皆さんのイメージにも合うのではないかと思うのですが、もし意図的に下が真横に伸びているのだったら、逆に意見を聞かせていただきたいのですが、いかがでしょうか。

○委員長（吉田幸正君）観光振興担当課長。

○観光振興担当課長　確かに斜め下に広がった方が、広がりに見えると思いますので、検討します。

○委員（奥村直樹君）終わります。

○委員長（吉田幸正君）ほかにございましたら。本田委員。

○委員（本田一郎君）まず、要望ですけれども、ウエルカムキャンペーンの本当の利用額と、あとそれに対する波及効果の綿密な分析を実施していただいて、また続けていただきたいということを要望いたします。

それから、質問ですけれども、課題のところの、市内に点在する観光スポットの回遊性が低いということでありますが、それが低い原因とその改善策等があればお聞かせください。以上です。

○委員長（吉田幸正君）観光振興担当課長。

○観光振興担当課長　低い原因と解決策ということで、市内に魅力ある観光施設とか観光地がたくさんあるというのが北九州の状況だと思っております。外国人の座談会におきましては、ツーリストパスとかがないので、公共交通機関を使うのも使いにくかったり、そういったところも課題ということでお話を伺っております。こういったところを、ツーリストパスの造成ということも検討しておりますし、あと外国の方は最近はレンタカーを使ってとかということもあったり、バイクに乗られてとか、いろんなツーリズムというか旅行の仕方、形態も変わっておりますので、そういったモデルコースの造成っていうところも重要とは思っておりますので、しっかりと北九州の観光施設を見てもらえる、観光地とかにも行っていただけるように取組を進めてまいりたいと思います。以上です。

○委員長（吉田幸正君）本田委員。

○委員（本田一郎君）ありがとうございます。ツーリストパスとか、足の問題等々も大き

いとは思います。いろいろよいものが各区に点在していると思いますけど、なかなか線でつながっていないということは分かります。

十数年前の話ですけど、少しだけすみません、前桝尾区長がコミュニティ支援課長のときに、若松区西部地区のにぎわいをつくるために会合を開いて、その際におさかなロードＰＲ実行委員会というのを立ち上げまして、若松北海岸の海岸線をおさかなロードと銘打って地域おこしに取り組みました。地元の漁協、農業関係、商業関係、また、一般市民も巻き込んで立ち上げたのですけれども、その際に、門司区のバナナのモニュメントになっている方から連絡がありまして、なぜ門司までがおさかなロードではないのかと言われまして、そういうつながり等も、今後、地域地域でつながりも必要になってくると思います。また、おさかなロードと銘打って、農家の方からも少しお叱りを受けたということもありました。またさらに、私もにぎわい懇話会でプレゼンもして、採択もされた経験もありまして、そういった部分では各区がまた協力し合って、今カニ・カキロードとかシュガーロードとかたくさんありますけれども、そういった部分で線につながっていけばいいなと思いますし、それを進めていただければということを要望して、終わります。

○委員長（吉田幸正君）高橋委員。

○委員（高橋都君）私からは、インバウンドの４ページのつながりというところで、広域連携の推進というのがあります。九州・山口エリアの自治体との連携、西のゴールデンルートの構築というのがあるのですが、実際には広域で連携しないと、なかなか九州の一角をなす観光都市となっていないというような課題が上がっている以上は、そういったことも必要だとすごく感じます。

それで、先日、私は予算の中でも言いましたが、下関で22万トンの大きなクルーズ船が入った、観光バスがレトロに来て、それが20台も来ていたという話を聞きました。だから、そういうふうに連携すれば大きな誘客につながるんだというのを感じていますので、そういったところの今後の見通しとか、連携をどのようにやっていくのか、また、クルーズ船の誘致も、小さなクルーズ船でもいいですので、北九州に入れるようなクルーズ船の誘致というものをどのように考えているか、教えていただきたいです。

○委員長（吉田幸正君）観光振興担当課長。

○観光振興担当課長　クルーズ船の誘致に関しましては港湾空港局の所管ではございますけれども、常日頃から私どもも連携をさせていただいておりまして、港湾空港局も下関としっかり関門連携をやっていくというようなことで、お互い市内を回っていただくような周遊ルートをつくったりということをされております。私どもも、下関市とは当然連携をしておりますので、観光分野でもありながら、クルーズの分野でもありながら、相互連携をしながら、しっかりとクルーズ船の誘致、来られたお客をお迎えするような取組もやっております。

観光課におきましては、市内のどんな観光が魅力的かというところもありますので、新しい外国人の目線に立ったコンテンツの造成とかもしっかりしていきますので、これもクルーズ・交流課が、例えば海外の旅行会社に売りに行くとか、クルーズ船誘致のときに使えるコンテンツにもなり得るかと思いますので、そういったところで連携を深めていきたいと思っております。

○委員長（吉田幸正君）産業経済局長。

○産業経済局長　先ほど課長が最初の説明で、庁内横断的に11課でというお話をしたと思いますけれども、座長は私がやりまして、港湾空港局のクルーズだとか、もう全部、例えば先ほど線の話が出ましたけど、建築都市局の交通政策課も入って、関連するところに全部集まってもらって、とにかくここでみんなが課題と思っているものを全部出してくださいということで観光でまとめて、先ほど説明しましたけれども、今後もこの11課でずっとこれを進捗管理していって、新しいアクションプランの中に盛り込もうとか、こういうことをやろうということを常にやっていこうと思っていますので、そこはしっかり連携して進めたいと思っています。以上です。

○委員長（吉田幸正君）高橋委員。

○委員（高橋都君）局長から力強いお言葉をいただきました。縦割りではなくて、それぞれの局が連携して、交通もそうでしょうし、経済もそうだし、クルーズもそうだし、空港もそうだし、いろんなところが一緒になってやっていかないといけないと思います。そして、市内の点在する観光スポットの回遊性が低いというのを先ほども言われていましたけれども、実際にクルーズ船というのは時間の制限があるかと思うのですが、北九州は広いですから、その方たちが何か所も回っていけるような、そういった回遊性というのも必要かと思います。その辺に対してはどうですか、北九州としての権限というか、コースの中身に権限はあるのですか。

○委員長（吉田幸正君）観光振興担当課長。

○観光振興担当課長　クルーズ船の団体でバスでいろんなところを回られること、そういうプランに関しましては、私どもも実は事前にいただいて、こういう団体がこういう回り方をしていますよというような情報をいただいたりはしております。クルーズ交流課が誘致する段階で旅行者にアプローチをしたりはしているかと思いますので、市内何か所も回っていただけるようなコンテンツ造成をしっかりやっていきたいと思っております。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君）高橋委員。

○委員（高橋都君）ぜひ回遊性の向上に努めてほしいと思います。

それとあと一つ、同じ４ページの中で、すしなどの食文化や商店街、市場での買物とあるのですが、今商店街、市場、もう本当に悲しいかな、シャッター街が多くて、そこだけ

を見に行くとか、外れればいいところがあるのですけど、これっていうのはもうＰＲというか、情報を提供するしかないのかと思うのですが、その辺についてどのようにお考えですか。北九州として、商店街、市場というものをここに明記するだけのことがあるのかと。

○委員長（吉田幸正君）観光振興担当課長。

○観光振興担当課長　外国人のお客様にヒアリング調査をしたところ、私たちの日常を体感したいというようなお声も多くありまして、商店街、市場とか、スーパーマーケットも含めてですけれども、そういったお声もかなり多くあります。なので、引き続き私どもとしましては、商店街も含めて、市場もＰＲはしっかりとしていきたいと思っております。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君）商業・サービス産業政策課長。

○商業・サービス産業政策課長　商店街の方もインバウンドが戻ってきたと認識しておりまして、免税の一括カウンター等を置きまして、例えば魚町商店街組合ですとか、京町、そういったところは６つの商店街組合が一緒になって、免税カウンターを置いて、取組を行っておりますし、旦過市場につきましても、今インバウンドの方がたくさん来られております。そこの情報発信のツールは弱いところがございましたので、最近、旦過市場と市が一緒になって食べ歩きマップを多言語で作りました。地元もそういうインバウンドの受入れというのは非常に興味のあるところでございますので、また、観光課と商業・サービス産業政策課も一緒になりながら、地元と連携してまいりたいと考えております。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君）高橋委員。

○委員（高橋都君）頑張ってください。以上です。

○委員長（吉田幸正君）ほかにございましたら。渡辺徹委員。

○委員（渡辺徹君）私からは、６ページの時間軸のところにリーディング事業というのがありますが、ステップ３で定着してもらうというところで、ホテル誘致、それから、空港への路線の誘致とかいろいろありますが、特に北九州はホテルがないとよく言われます。門司港地区はここ数年、ずっとホテルが建つという割にはそれが延びて、なかなかできていないというのが現状で、こういったところをどういうふうに捉えて、こういう計画をしていただくのは大変ありがたいのですけど、そのたびに期待して、そのたびにがっかりするというのが大半です。ぜひしっかりこの辺のところは、ここでもうはっきり計画をしていただきたいというのと。

　あと北九州空港のことに関しては、港湾空港局は確かに延長どうのこうので頑張ってやっていますけれども、それを生かしていくのは大半が産業経済局の仕事だと思っております。観光一つにしても、いろんな形で空港を利用するけれども、かなりもう堅いというか、面白みがないというところがありますので、そういったところをどういうふうに考えてい

るのかを意見を聞かせていただきたい。とにかく観光客、インバウンドの人には北九州空港から入っていただいて、北九州空港から出ていただく、それだけ滞留性といいますか、回遊性もしっかりつくっていくというのが一番大事なことだと思っておりますので、その辺のところをお聞かせください。

○委員長（吉田幸正君）門司港レトロ課長。

○門司港レトロ課長　門司港レトロ地区におけるホテルの誘致の状況についてお答えいたします。

確かに門司港レトロ地区はホテルが不足しているという声は多く聞いていまして、今現在、大体400室ほどホテルが客室数としてはあるのですが、やはりピーク時とかには団体客が泊まれないという課題があったりとかして、全体としてもうちょっとますが大きいほうがいいという声はあります。

その中で、今、門司港の西海岸地区の美里建設が進めているホテルにつきましては、これは港湾空港局の所管になりますので、またそちらからも報告があるとは思いますが、私どもとしては、門司港駅前の旧ＪＲ九州本社ビル、これは委員からも以前より強い関心を持っていただいて、御指摘を受けておりますが、昨年12月には、今まで令和元年からずっと協議を継続していました香港の投資会社とは一回契約を白紙に戻しまして、また、今年の５月を予定していますけれども、再公募をかける予定にしています。その中で、いろんな事業者の声を聞いておりますので、何とか魅力ある事業者を公募の中で見つけて、門司港で今客室数が不足していますから、それを拡大するような形につなげていきたいと思っています。以上です。

○委員長（吉田幸正君）観光振興担当課長。

○観光振興担当課長　北九州空港の利用促進というところになるかと思います。

一番ピークで平成30年に北九州に外国人が訪れていたときというのが、かなり路線数があったということもございます。空港企画課も今回北九州空港大作戦ということでいろんな取組をやられておりますけれども、観光課としましても、来年度、また大分県、山口県と連携しながら、北九州空港を軸にという形もできますし、いろんな形で周遊ルートをつくっていったりというところで、北九州空港を使っていただけるような旅行商品の造成だったり、誘客の方法だったりということを考えていきたいと思っております。引き続き港湾空港局と連携しながら、しっかり取り組んでまいりたいと考えております。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君）渡辺徹委員。

○委員（渡辺徹君）ありがとうございます。

国民宿舎がなくなってから久しいですけど、国は、一昨年、国定公園でもホテルを建てやすいように、提案次第でいろいろできるということをお聞きしたのですけど、なかなか

話が生きていない。そういう場所を生かせていないというのも大変地元としては寂しい気持ちもします。皆さん方の御努力は大変よく分かっておりますし、また、先ほど話がありましたけど、やはり北九州空港を生かすも、全て路線とマッチして、その中で増やして、その中で観光を増やしていくということが一番大事だと思っております。これは、ここだけじゃなくて、港湾空港局にも言っているところですけど、そういった総合的に、ここの議員全員が言っているのは連携して、しっかりこの北九州のためにということで、ぜひ力を絞って頑張っていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○委員長（吉田幸正君）ほかにございましたら。ここで副委員長と交代します。

（委員長と副委員長が交代）

○副委員長（渡辺修一君）吉田委員。

○委員（吉田幸正君）時間がないので、ちょっとだけお付き合いください。

まず、ウエルカム北九州のデータは相当興味を持っていますので、楽しみにしています。マーケットの視点というのはすばらしいことだと思っていますので、大変期待しています。

僕が思ったのは、５億円の予算を積まれたときに、私は外国人だけではなくてもいいじゃないですかという思いもありましたし、北九州に訪れていない福岡の人とか、熊本の人とか、山口の人とかたくさんいらっしゃるという思いがありましたので、そうしましたけど、あれはインバウンドでいいです。そのインバウンドの人たちが日本に入って、つまり福岡空港は多くの人が入ってくるゲートになっていて、そこで北九州はどうですかと御案内したら、相当な数に来ていただいたということは、僕はもともと旅行にはルートが決まっているものだと思ったら、結構そうでもなかったと思っています。そこで、そうなると、今度、我々がターゲットとしている市場、韓国、台湾、中国、タイ、シンガポールとありますが、実は福岡空港というのが物すごく重要な場所になるのではないかと思います。僕は福岡空港に行って、北九州に来ませんかというキャンペーンやらポスターやらを見たことは一度もないという気がしますので、北九州を見ずに福岡は終わりませんよということがあって、気になって北九州はどうなのかなと検索したら、ああ、お城もあるわ、おすしもあるわみたいなことになるのではないかと思っていますので、福岡空港が一つの我々の大きな市場になるということをぜひ意見として申し上げておきます。

そこに１つデータですが、福岡空港に来る人の約２万人が北九州に来ていて、そのうち１万5,000人が泊まっているということになると、２割ですから、そうすると福岡空港に入ってくる外国人の数は、算数だと10割で10万人ということになると思います。このデータがどうなのかということが１つ。

それと、僕は北九州に結構人が来ていただいたとしても、なかなか宿泊してもらえていないのではないかという思いがあったのですが、2.1万人のうち1.5万人が宿泊しているということになると、相当宿泊率は高いという認識ですが、この認識で正しいのか教えてく

ださい。

それと、そのターゲット、全体の観光客のところで、僕は今回の議会でもやりましたけど、ナイトタイムエコノミーというのがあって、夜どう楽しんでもらえるかということが一つ重要で、夜楽しんでもらうというのは、飲食店とはちょっとニュアンスの違うことなのだろうと思っています。この計画の中に、ナイトタイムエコノミーという言葉自体も存在をしていないですが、このことをどう捉えているか教えてください。以上です。

○副委員長（渡辺修一君） 観光振興担当課長。

○観光振興担当課長　10万人の件は、すみません、後ほど回答させていただきますが、ナイトタイムエコノミーに関しましては、確かに重要だと考えております。今回、いろんなアンケート調査を取らせていただきまして、インバウンドのお客様にとっても北九州の夜景がとても魅力的だというような回答もいただいております。そういったところも、夜景と食をつなげながら、しっかりとやっていきたいと思います。

すみません、本文の34ページに、夜景やイベントを活用したナイトタイムエコノミーの推進ということで書かせていただいております。ちょっと慌てて回答したので申し訳ございません。こちらもやっぱりインバウンドのお客様についても重要だと考えております。

北九州市内への宿泊の件ですが、宿泊は増えてはきておりますが、データがすぐ出てこないので。

○副委員長（渡辺修一君） 吉田委員。

○委員（吉田幸正君） ここに書いてある、外国人宿泊客数が2022年1.5万人って書いているので、２万人に対し1.5万人の宿泊率は非常に高いけど、その認識でいいかという質問です。

○副委員長（渡辺修一君） 観光振興担当課長。

○観光振興担当課長　大変失礼いたしました。

このインバウンドのＫＰＩに関してですが、日帰りが2.1万人、宿泊が1.5万人ということで、これはコロナ禍の影響がいろいろとあるかと思いますので、ここを単純に比較すると、多いか少ないかというところはなかなか難しいところではあるのですが、このデータだけを単純に見ると、それなりに宿泊はしていただいているかとは思います。

○副委員長（渡辺修一君） 産業経済局長。

○産業経済局長　クーポンを取るときに必ず答えないとクーポンが取れないということで、ウエルカムキャンペーンでデータを取ったのですが、それを見て思ったのは、クーポンを取った人たちが、結構福岡空港から来た方が北九州に７割ぐらい来ています。福岡空港から入ってきた全体の５万人の、そのうちたしか８割ぐらいが宿泊すると言っています。これは事前のアンケートなので、実際に泊まったかどうかというのは追いかけていませんが、事前にクーポンを取るときなので、うそはつかないと思いますので、かなり精度の高いデータであると思いますが、ということは結構言われたように泊まっています。だから、そ

ういうデータが取れたということがありますので、しっかりとこのデータを分析して、どういった方がどこから来てというところを生かしていきたいと思っています。

何しろ福岡空港からほとんど九州に入ってきていますから、ここから連れてくるというのは大事なことで、例えば福岡空港にポスターがあって、今日、北九州ですし食べませんかみたいなのをするとか、予算があるので、できるかどうかはわかりませんが、非常に大事な視点だと思っております。以上でございます。

○副委員長（渡辺修一君） 観光振興担当課長。

○観光振興担当課長　福岡空港からの入国者数ですけれども、こちらは、アンケート結果で福岡空港から２割ですが、これはある一定の期間調査をさせていただいて、福岡空港から出国される方に調査をして、北九州に２割の方が来ているという調査結果になっておりますので、イコール単純な計算をしてという形で、10万人しか福岡空港から入国していないということではないです。

○副委員長（渡辺修一君） 吉田委員。

○委員（吉田幸正君） 福岡空港の外国人が入ってくる数字は、1,000万人を超えていると思います。2022年の状況で、コロナ禍以外は恐らく下回ったことはないと思います。その中で、２万人が北九州に来ている、2022年において、それをＫＰＩの指標に掲げて、令和７年に40万人にしようと思っている。これを目標値に掲げているときに、もともとの立てつけの数字があまりにもゼロが１個違うとなると、これがうまくいったときに単純に喜んでいると、何の根拠だったかということになるのではないですか。

○副委員長（渡辺修一君） 観光振興担当課長。

○観光振興担当課長　大変失礼いたしました。こちらは現状ということで、一番分かる数字を２万人と1.5万人ということで令和４年度の数字を書かせていただいているのですが、今回の目標値は、平成30年のコロナ前の北九州に訪れた観光客がピークだったときを前提にさせていただいております。平成30年は、外国人の日帰り観光客数が39.8万人、外国人宿泊者数が29.3万人、これを超える人数を、今回、ＫＰＩの数字に定めさせていただいております。すみません、質問の意図を理解せず大変失礼いたしました。

○副委員長（渡辺修一君） 吉田委員。

○委員（吉田幸正君） そうすると、僕の目から見ると、２万人を40万人にしよう、20倍にしようという高い意気込みかと思ったら、前と同じようになるように頑張りましょうというのが目標値であれば、ちょっとやる気というか、違うのじゃないかと思いますけど、原状復帰されるのはそれは当然だと思いますけど、それを超える数字の目標設定になっていないのに、２万人が40万人というのが世の中に出るのでしょうか。

○副委員長（渡辺修一君） 観光振興担当課長。

○観光振興担当課長　今回の目標値の設定ですが、令和７年、このプランに関しては令和

９年までを目標に取組期間とさせていただいているのですが、現在、中国の状況とかが回復していないとか、いろんな国の状況とかもございますので、再度目標設定を令和７年以降のものについては検討させていただきます。当面の間、コロナ禍前、まだ路線も戻ってきていないですけれども、福岡空港等からしっかり誘客をして、当時の状況に戻したいと、当時以上に戻したいということでこのような数値にさせていただいております。以上でございます。

○副委員長（渡辺修一君） 吉田委員。

○委員（吉田幸正君） これは、福岡空港に10万人しか来ていなくて、実際は1,000万人を超えていると思いますけど、その２割が来ていると書いてあって、そこに２万人とあって、1.5万人が泊まっていて、40万人の目標というのを見て、我々は今その審議をしているわけなので、精度はぜひと思います。それで、恐らくきちんと高い目標値を掲げてくれると私たちは期待もしていますし、そう確信をしていますから、変なところにつまずかれないようにしてほしいというのが一つと。

さっき言われた、２万人来て1.5万人というデータは確かな数字だろうと、これは間違いないことだろうと思いますので、来てくれれば泊まってくれる確率は間違いなく事実と思っていますし、ナイトタイムエコノミーという繁華街も含めてだと思いますので、外国の人たちが来てくれれば泊まってくれるのであれば、そこをしっかりやろうというふうになると、英語の表記も少ないですし、まだ正直言って暗いですし、同時に呼び込みというのが結構地域で外国人ともトラブルを起こしているということが事実としてありますので、トータルで捉えて、呼び込みは特に僕は今問題視していますので、いい事業に取り組んでほしいと要望して、終わります。私からは以上です。

○副委員長（渡辺修一君） ここで委員長と交代します。

（副委員長と委員長が交代）

○委員長（吉田幸正君） ほかになければ、次に、お手元の一覧表記載の事件について、次の定例会までの間、調査することとし、閉会中継続審査を行いたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり。）

御異議なしと認め、そのように決定をいたしました。

次に、行政視察についてお諮りします。

本委員会の行政視察について、正副委員長案を作成しましたので、お手元配付の資料を御覧ください。

行政視察は、令和６年５月14日から16日までの３日間の日程で、名古屋市で商店街が見たかったのですけど、向こうの都合により駄目で、浜松市のものづくり企業と融合したスタートアップ支援の取組について、千葉県の地域未来投資促進法を活用した産業用地の確

保及び企業誘致の取組について、東京都大田区の物流拠点化推進の取組について、それぞれ視察を行いたいと思いますが、この案に質問、御意見ございませんか。

（「異議なし」の声あり。）

ありがとうございます。御異議なしと認め、そのように決定いたしました。

なお、議員派遣要求書を議長宛てに提出しますので、御了承願います。

以上で所管事務の調査を終わります。

ここで、本日の報告に関する職員を除き、御退室をお願いいたします。

（執行部入退室）

ここでお諮りをしますが、港湾空港局の報告が２件あるのですが、継続してよければ継続で。継続でいいですか。港湾空港局も待たれていますので、継続とさせてください。

時間がお昼にかかってしまいましたけど、待機いただきましたので継続させていただきました。簡潔、明確に答弁をよろしくお願いします。

それでは、港湾空港局から北九州港廃棄物海面処分場整備事業の公共事業評価に関する検討会議及び市民意見を踏まえた市の対応方針について、門司港レトロ地区臨海部開発事業の開業時期についての以上２件について一括して報告を受けます。整備課長。

○整備課長　それでは、北九州港廃棄物海面処分場整備事業の公共事業評価に関する検討会議及び市民意見を踏まえた市の対応方針について御報告いたします。

響灘東地区の廃棄物海面処分場につきましては、事業費の増額と、これに伴い事業期間を延長せざるを得なくなったため、今年度、公共事業再評価におきまして、事業計画を変更して事業を継続することの是非を諮ってきたところであり、当委員会におきましても、事業計画の変更内容や再評価の手続について御報告してきたところです。

このたび、公共事業評価に関する検討会議を実施し、市民意見を募集した上で、市の対応方針を決定いたしましたので、御報告いたします。

まず、１、検討会議の意見です。

昨年12月26日に実施した外部の有識者で構成される公共事業評価に関する検討会議におきまして意見を求めました。

(1)事業の進め方についてですが、構成員の総意として、必要な事業であり、事業継続に異論はないとの結論が出されました。

また、(2)指摘事項としまして、平成30年度と合わせて２度の事業計画の見直しを経て、事業費が増加しているため、市民に対して、事業の必要性やコストが上がる要因などについて分かりやすく説明することとの意見が出されました。これを受けまして、公共事業再評価の説明資料に、これらの点を分かりやすく説明するものを補足した上で公表し、市民意見の募集を行いました。そのほか、市民生活や経済活動に多大な影響を及ぼすため、事業期間がこれ以上延びることがないよう、着実に事業を進めてほしいとの意見がありまし

た。

廃棄物処分場につきましては、現行処分場が延命できる期限である令和13年度までに完成させることが必須です。港湾空港局としても、さらなるコスト縮減により、事業費を少しでも抑え、令和13年度までの確実な事業完了を目指します。

次に、２、市民意見の募集、結果です。

検討会議までの結果を踏まえた市の対応方針を示した上で、今年１月19日から２月16日までの約１か月間、市民意見を募集いたしましたが、意見なしという結果でした。

次に、３、市の対応方針ですが、公共事業再評価手続の中でいただいた意見等を踏まえ、変更後の計画どおりに事業を継続いたします。

最後に、４、今後の手続です。

本件につきましては、今月中に市のホームページへの掲載や事業担当課、区役所等での閲覧という形で公表いたします。

以上で報告を終わります。

○委員長（吉田幸正君） 計画調整担当課長。

○計画調整担当課長　門司港レトロ地区臨海部開発事業の開業時期について御報告させていただきます。

資料を御覧ください。事業経緯及び経過でございます。

門司港レトロ地区臨海部開発事業では、同地区のにぎわい創出と魅力向上を目的といたしまして、市有地を活用した宿泊施設を有する集客施設の開発を行っております。

本事業では、公募型プロポーザルによって民間事業者を募集し、事業者検討会において審査された結果を参考に、令和３年９月に美里建設株式会社を優先交渉権者として決定、その後、令和４年１月に同社と市有財産売買契約書を締結しまして、市有地の売却を行いました。

契約締結後は、事業者が公募時に作成した事業提案書に基づいて計画、設計を進め、本年１月より現地工事に着手したところでございます。

開業時期の変更についてでございます。

今般の工事費の増大に伴うコスト縮減のための再設計を実施したこと、また、建設業界の働き方改革、いわゆる2024年問題や深刻な人手不足、さらには、水回りや電気設備品の品薄などの社会経済情勢を踏まえ、事業者が工程の見直しを行った結果、開業時期を令和７年８月から令和８年７月に変更することとなりました。

なお、事業者からは、施工に際しましては、安全性を確保しつつ、工期の短縮に努め、早期の開業につながるよう努力してまいりたいと報告を受けております。

資料の左下に開発事業地を示す位置図を、右下には完成予想図をおつけしておりますので、御参照ください。

以上で門司港レトロ地区臨海部開発事業の開業時期について報告を終わります。

○委員長（吉田幸正君）ありがとうございました。

ただいまの報告に対し、質問、意見をお受けします。当局の答弁の際は、補職名をはっきりと述べ、指名を受けた後、簡潔、明確に答弁願います。

御質問、御意見はございませんか。田中委員。

○委員（田中元君）お尋ねしたいと思います。

これはホテルということでありますけど、どういったレベルのホテル、ビジネスホテルなのか、内容を教えていただきたいと思います。当然、部屋のタイプというか、そういったものも変わってくると思うのですけど、それを教えてほしいと思います。

それと、商業施設とあるのですが、テナントもぼんぼんぼんと入れて終わりなのか、あと商店街との整合性とかも教えてほしいと思っています。

これが、どういったコンセプトで、にぎわい創出、魅力向上ということでありますので、当然このホテルをつくることによって、にぎわいが生まれるホテルにするということであります。宿泊だけではなくて、商業施設も充実したものになるはずと思っています。その辺も、この建物でどういったにぎわいを生む工夫をしているのか教えてほしいと思います。取りあえずそれだけお願いします。

○委員長（吉田幸正君）計画調整担当課長。

○計画調整担当課長　まず、今建設しているホテルのタイプでございますが、ビジネスホテルではございません。事業者はどちらかというと観光客を相手にした、そのようなホテルをコンセプトとしてやっております。

続きまして、商業施設ですね、１、２階は商業施設、直接事業者の美里建設はそういったノウハウはございませんので、テナントリーシングの運営事業者とも契約をして、その辺のところを、今後、まだ詰めていくと伺っております。

にぎわいの創出に関してでございますが、門司港駅を中心に見まして、今門司港レトロ地区はブルーウィング、はね橋だとか、海響館とか、ちょっと途切れている感じがありますが、今回、このホテルの建設と同時に、ここに隣接する門司港駅側に九港ビルという民間のビルがございまして、そこを美里建設が買収して建て直し、一旦そこを崩して、ホテルと商業施設とを連接するような形のビルを建てるようにしております。その結果、門司港駅から徒歩での西海岸地区への動線の確保、それに伴って、にぎわいといいますか、そういうふうな創出につなげられるものと考えてございます。

あとやはり宿泊施設ということでございますので、門司港レトロ地区の今の課題でございます、観光客の滞在時間が短いということをクリアするためには、当然宿泊施設がかなり重要なものになってきますので、そういうことも含めてのにぎわい創出につなげていきたいと考えてございます。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君） 田中委員。

○委員（田中元君） ありがとうございます。

これは造って終わりにならないようにしないといけないのが大きなところですけど、これができた後の所管も港湾空港局でいいのですか。

○委員長（吉田幸正君） 計画調整担当課長。

○計画調整担当課長 実はこの事業自体は民間の事業でございます。市が持っていた土地を民間の事業者に分譲して、やっていってもらっていますので、市の事業ではなくて、あくまでも民間の事業でございます。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君） 田中委員。

○委員（田中元君） 分かりました。そういった意味で、民間ということであるので、ここも必死になって頑張っていただけるものと期待をしているところです。

また、門司港レトロは物すごくいい場所でもあるし、僕もこの委員会に入って門司に行くことが物すごく多くなって、結構夜も若い子たちが多いなという感じがしました。ということになれば、若い子たちにも受けるような商業施設であってほしいなと。この辺は恐らくあまり苦情も上がってこないのではないかと、音とか光とか、そういったものも、小さいライブができたり、若い子たちが集まれるような、何かにぎわえるような施設になってほしいという思いがあって、要望させていただきます。以上です。

○委員長（吉田幸正君） 奥村委員。

○委員（奥村直樹君） 今回、民間の事業ですけど、このように報告があったっていうのは、これは義務があって報告していただいたのですか。それとも、向こうがたまたまこうですよと言ってきただけなのか、今後もまた遅れたときにちゃんと来るものなのかっていうのはどうですか。

○委員長（吉田幸正君） 計画調整担当課長。

○計画調整担当課長 厳密に言いますと義務というものはございませんが、事業者からこういう報告を受けましたので、これはきちんと御報告を差し上げないといけないということで、今回報告させていただいております。

開業の時期でございますが、実は一番懸念しておりますのが、先ほども言いました、例えばユニットバスであるだとか、温水便座、いわゆるウォシュレット、そういったものの機器類の確保が今納期の約束ができないと、メーカーがいついつまでには絶対に入れるということがまだ確約が取れないみたいなので、それで曖昧ではございますが、開業時期ということで御報告させていただいております。

ただし、そこが解消すれば、当然前倒しの開業ということも十分考えられますし、正式な開業時期が判明次第、また委員会で御報告させていただきたいと考えております。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君）奥村委員。

○委員（奥村直樹君）事業者から報告があったからお伝えいただいたのですけど、例えば公募型のプロポーザルで売却しても、その場合は売って契約したら基本的にはその後はもう関わりは全くなくなるということでいいのですか。

○委員長（吉田幸正君）計画調整担当課長。

○計画調整担当課長　実際にこのホテルなり商業施設が開業するまでは、我々としてはちゃんとその用に供するのを確認する必要がございますので関与がございますが、用に供してしまえば、言い方は悪いですけれども、一旦この事業から関係はなくなるということになると思います。

ただし、門司港レトロ地区のにぎわいに関して、引き続きこういった事業者と関係を持っていくことは非常に重要だと考えておりますので、そのように継続して、いい関係を続けていきたいと考えてございます。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君）奥村委員。

○委員（奥村直樹君）分かりました。

最後に、さっきの九港ビルでしたか、隣のビルのところはプロポーザルの話の中には入っていたのでしょうか、それとも後の話ですか。

○委員長（吉田幸正君）計画調整担当課長。

○計画調整担当課長　我々の募集したプロポーザルの中には入ってございません。事業者の提案書の中にはその内容がうたってありました。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君）奥村委員。

○委員（奥村直樹君）分かりました。じゃあ、そこまではこういった報告もないかもしれませんが、一体的開発というのは非常に皆さん関心の高いところなので、分かる情報があればまたぜひシェアいただけたらと思います。終わります。

○委員長（吉田幸正君）高橋委員。

○委員（高橋都君）先ほどのホテルのことですが、これはコスト削減のために再設計として書いてあるのですが、最初の予定の設計と随分大きく変わったのかどうか、その辺を教えてください。

○委員長（吉田幸正君）計画調整担当課長。

○計画調整担当課長　この設計内容というのが、当初は鉄骨づくり、いわゆる断面がH型の鉄骨で、まず、柱だとかはりを組み合わせて、その後、壁だとか床をつくっていく鉄骨づくりという設計を行っておりました。

しかしながら、ロシアによるウクライナ侵攻、こういった世界情勢から鉄骨材の価格が相当上がりました。それと、納期についてもかなり長くなりましたので、事業を進めるために、事業者としては鉄骨造りから鉄筋コンクリート造り、要は型枠を組んで、その中に

鉄筋を組んで、生コンを打設して、一階一階、柱、床、はりを造っていくという構造の見直しを行いましたので、部屋数だとかそういうところの変更は行ってございません。

ただ、部屋の数はそんなに変わらないですが、中の空間だとか、天井高とか、そういったものはやはり微妙に変化は生じておりますので、根本的な構造自体が変わったという内容でございます。ですので、見直しといいますか、変な話ですが、鉄骨造りの設計書が出来上がっていましたが、それを捨てて、ゼロからもう一回鉄筋コンクリート造りの設計をし直したという内容になってございます。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君）高橋委員。

○委員（高橋都君）分かりました。

あと、景観という意味で、外観とかというものは問題ないわけですよね。

○委員長（吉田幸正君）計画調整担当課長。

○計画調整担当課長　景観に関しましては、そもそも募集要項の中でもうたっていますが、こちらは関門景観形成地区に入っておりますので、関門の景観形成委員会にもお諮りして、そこで承認をいただいた色目だとか、そういったデザインにはなってございます。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君）高橋委員。

○委員（高橋都君）分かりました。よろしくお願いします。

○委員長（吉田幸正君）ほかにございましたら。渡辺徹委員。

○委員（渡辺徹君）るるお聞きしまして、もう大変努力しているのはよく分かりました。

ただ、今まで門司港に関わったものは全部工期延長がされて、後そのまま頓挫してしまうということが大変に何度もあっておりますので、これは民間事業、また、工事も今年始めているということですから、確かに部材がいろんな形で入りにくいというのはよく分かります。それで、ぜひ御努力いただきたい、建てるまでがお付き合いということですから、しっかりその辺はアドバイスしていただきたいと思います。

それと、鉄骨から根本的に変えると、耐震的にといいますか、災害、そういったものには大丈夫ですか。

○委員長（吉田幸正君）計画調整担当課長。

○計画調整担当課長　耐震については、鉄骨造りであっても、鉄筋コンクリート造りであっても、当然現在の耐震基準を満たすような設計をしておりますので、その辺については全く問題ございません。以上でございます。

○委員長（吉田幸正君）渡辺徹委員。

○委員（渡辺徹君）ありがとうございます。無事に日の目を見るようにぜひお願いいたします。以上です。

○委員長（吉田幸正君）ここで副委員長と交代します。

（委員長と副委員長が交代）

○副委員長（渡辺修一君）吉田委員。

○委員（吉田幸正君）短くやりますので、２つ教えてください。

１つは、これは要望ですけど、ホテルができるということは、前ＪＲ九州ホテルですかね、あのときもお願いしましたが、一番いいところに、何もないのはすごく寂しいので、それまでの期間、できるまでの期間もちゃんと格好よくしておいてくださいと。これも同じ話で、できるかなと思ったら延期、事情は分かりますけど、それまでの期間に、カミングスーンとか、ホテルができますよとか、こういうことですよとか、町がわくわくするような感じにしてほしいと、これは要望です。

１個質問ですけれども、公募型プロポーザルで、例えば、吉田建設がむちゃくちゃいいものを建てますと契約を取った。ところが、ウクライナがあったので、物すごい大したことのないものを建てますとなったときには、やっぱりちょっと不思議な感じになるじゃないですか。今回はそういうふうな影響だという印象を僕は持っていませんけど、事実そういうことがあった場合というのは、手続上はどうなるのですか。提案して、例えば３階にルーフトップがありますよということで評価をされているが、ウクライナがあったので、それをなくしましたみたいなときには、どういう手続になるのか。言ったもの勝ちというか、そういう手続になっているかというのを、手続論として教えてください。

○副委員長（渡辺修一君）計画調整担当課長。

○計画調整担当課長　今御質問があった内容は、要は提案内容も明らかにランクが下がるという場合は、それはもう市としては認められない形になると思います。そういった場合に、売買契約書の中身の詳細は今把握してございませんが、事業者に何らかの理由があって解約、要はこの売買契約自体を解約して、その際に、違約金を徴収して、もう売買金額の差額しか返さないというようなことで、そもそもこのプロポーザルの募集の内容が変わってきますので、そこは多分解約になると判断します。以上でございます。

○副委員長（渡辺修一君）吉田委員。

○委員（吉田幸正君）これは何件か、実はあった事例でもありまして、例えばこういうものをやりますよといって、実際は、探したけどいませんでしたからしょうがないですよとか、あるいは指定管理もそうですけど、こういう目標ですよと言ったもの勝ちみたいになってしまって、実際可能か不可能かと、事実かどうかの確認もやらないみたいな話もあったりしました。ですから、今後の課題、美里建設はしっかりされていると、ちゃんと管理されていると思いますけど、今後、全体の話として、募集したことがきちんとできるかどうかまでが皆さんの仕事だと思いますので、諸事情に応じて多少の、それはもう常識だと思いますけど、僕からは性善説によってできているような仕組みに見えるので、そこはきちんと今後の課題として捉えてほしいと要望して終わります。以上です。

○副委員長（渡辺修一君）ここで委員長と交代します。

（副委員長と委員長が交代）

○委員長（吉田幸正君）ほかに御意見ありませんか。

なければ、時間を延長して大変すみませんでした。

以上で本日は閉会いたします。

経済港湾委員会　委員長　吉田幸正　印

副委員長　渡辺修一　印